

令和6年度
埼玉学園大学大学院
心理学研究科 FD 活動報告書

令和7年5月14日
心理学研究科
FD委員会

目次

1	はじめに.....	1
2	F D活動に関する基本方針.....	2
2-1	F D委員会の委員構成.....	2
2-2	F D委員会の開催日及び議題.....	2
3	心理学研究科教育体制.....	3
3-1	教育方針（ポリシー）.....	3
3-2	研究科長による3ポリシーの検証.....	4
3-3	教育実施体制.....	5
3-3-1	専任教員.....	5
3-3-2	客員教員/兼任教員.....	5
3-3-3	担当授業科目・研究指導.....	6
3-3-4	カリキュラム.....	7
3-3-5	時間割表.....	8
3-3-6	院生数.....	9
3-3-7	研究題目一覧.....	9
3-3-8	履修状況.....	10
3-3-9	定期試験.....	11
3-3-10	実習について.....	12
4	授業アンケート・授業報告.....	13
4-1	授業アンケート実施概要.....	13
4-2	教員の授業報告.....	13
5	研究発表会及び意見交換会.....	41
5-1	研究発表会.....	41
5-2	大学院専任教員と大学院生による意見交換会.....	41
5-3	大学院専任教員と客員教員による意見交換会.....	41
6	論文審査について.....	42
6-1	修士論文中間報告会・構想発表会.....	42
6-2	学位論文発表会及び最終試験.....	43
7	おわりに.....	43
参考資料1	埼玉学園大学大学院F D委員会規程.....	44
参考資料2	学生向け授業に関するアンケート実施のお願い.....	45
参考資料3	教員の授業報告.....	46
参考資料4	中間報告会の振り返り.....	47

1 はじめに

埼玉学園大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻は、平成 26 年度に臨床心理士養成のために開設されました。その目的は、高度かつ実践的な臨床心理学の専門知識を習得し、対人技術能力を培い、教育、福祉及び医療などの領域において、国民の生涯にわたる持続的な福祉と心の健康を支えることに寄与するところにあり、本学の教育理念である「広く社会に貢献できる人材を養成」に沿うものである。

なお、現在は国家資格である公認心理師の養成プログラムに対応したカリキュラムを開講している。

本心理学研究科における大学院教育が当初の教育目標を十分達成されたかどうかを検証することと、もし不十分な点があれば早急に改善を図り、さらに本研究科教育を充実したものにするために、埼玉学園大学大学院心理学研究科FD活動報告書を作成している。

2 FD活動に関する基本方針

心理学研究科におけるFD委員会の基本方針と役割、FD委員会規程については、当初の通りで変更はない。
(参考資料1) 令和6年度のFD委員会の構成員は、以下の通りである。

2-1 FD委員会の委員構成

委員等	所属・職名	氏名
委員長	FD委員長	大川 一郎
委 員	心理学研究科教授	安崎 文子
委 員	心理学研究科教授	原 恵子
委 員	心理学研究科准教授	川久保 惇
委 員	心理学研究科准教授	泉水 紀彦
委 員	心理学研究科客員教授	柴田 勲

2-2 FD委員会の開催日及び議題

令和6年度に開催された委員会の日時と議題は以下の通りである。

【令和6年度 FD委員会の開催日及び議題】

開催日	議題
令和6年 5月8日	(1) 令和5年度FD活動報告書について
令和6年 7月10日	(1) 令和6年度研究発表会の実施について (2) 令和6年度教育研究に関する意見交換会の実施について
令和6年 10月9日	(1) 令和6年度研究発表会の報告について
令和6年 11月13日	(1) 令和6年度意見交換会の報告について
令和7年 2月12日	(1) 令和7年度のFD活動について

3 心理学研究科教育体制

3-1 教育方針（ポリシー）

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心と行動についての深い理解と科学的思考を身につけ、臨床的態度と専門的技法をもって人々に心理的援助のできる人材の養成を目的としています。このため、学位授与の要件としては、学生に次のような能力の修得を求めます。

- ① 学生が臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床的实践力を修得していること。
- ② さらに、実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と理論的洞察を支えるための研究スキルが備わっていること。

これらの観点を踏まえて、以下の要件を満たしているときは、修了を認め、修士（臨床心理学）の学位を授与します。

大学院に2年以上在学し、履修要件に定める授業科目を履修し、専門科目35単位（必修25単位を含む）以上、「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」各4単位の合計43単位以上を修得し、かつ修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格すること。本研究科は、文部科学省・厚生労働省の公認心理師法の定める必要科目を履修することにより、公認心理師の受験資格が得られます。

また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院となっており、学位の取得により、臨床心理士の受験資格が得られます。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として、個人及び組織・地域からの援助希求に対して高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成します。

具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域によって編成されます。

教育課程編成の目的を効果的に実現するために、教育方法として、通常の講義形式のほか、事例研究方式、課題討論方式、ロールプレイ、グループワークを含む模擬実習など、具体的かつ実践的な体験学習を多く組み入れます。

なお、カリキュラム編成においては、文部科学省・厚生労働省の定める公認心理師法の必要科目を履修し、達成すべき到達目標を実現するように配置されています。さらに、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会による指定要件を踏まえて臨床心理士養成指定大学院一種の認定を受けています。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科では、人間の心の問題に対応する実践的な人材として高い専門性と臨床的立場でのコミュニケーション能力および問題解決能力を重視する教育を目指します。本研究科の修了生には、公認心理師や臨床心理士としての活躍が期待されており、入学生には、学修成果の達成に必要な基礎的な知識・能力と明確な目的意識が求められます。

このため、本研究科では、次のような方法で入学者の選抜を行います。

【選抜試験】

- ① 入学後の研究課題と問題意識を明らかにした研究計画書を提出させる。
- ② 設置している科目の履修に必要な基礎知識を量るため、専門科目（心理学）と英語（Ⅰ期入試）及び専門科目（心理学）と論述（Ⅱ期入試）に関する筆記試験を行う。
- ③ 書類選考及び口述試験により、公認心理師や臨床心理士としての人間的資質を確認する。

本研究科は、研究奨励目的に成績優秀な学生に、選考により最大2年間にわたり、返還のない奨学金制度を備えている。

3-2 研究科長による3ポリシーの検証

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学研究科は、心の健康を支援する人材の養成を目的として、人間存在に対する深い理解と科学的思考を身につけ、心理支援者として期待される臨床的態度と専門的技法の習得を目指している。より具体的には、①公認心理師資格試験と臨床心理士資格試験に十分臨める水準の臨床心理学的知識と臨床実践力を修得していること、②実践家・研究者モデルに沿って、臨床場面で起こる事象への科学的理解と論理的洞察を支える研究スキルが備わっていることの二点である。

上記目標の達成は、学内・学外の臨床実習と平行して、特別課題研究の修士論文作成にも取り組む必要があることから、学生にとって心身および時間的負担が大きい課題である。そのための指導体制として、学生一人ひとりに集団指導による複数の臨床指導教員と、主・副の研究指導教員を置き、それぞれ連携協力しながら指導を行っている。すなわち、一人の学生に対して複数の教員が責任をもってかわり、心身の状態に考慮しながら教育指導にあたることで、院生の学修を支援している。

令和6年度の本研究科修了生は6名であったが、全員が臨床実習と修士論文作成に意欲をもって取り組み、高い水準で成果を上げたと評価することができる。修了後の進路としても、児童発達支援領域での常勤あるいは非常勤による就職を果たしており、質の高い心理支援者を輩出する研究科としての実績を残している。

。

II. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

心理学研究科では、自立した心理支援専門家として高い共感性とコミュニケーション能力を持ち、十分な心理社会的援助能力を修学することを目標としたカリキュラムを編成している。具体的には、①心理臨床活動を展開するための実践力を養成する「基幹科目群」、②臨床心理学の知識と方法論をより高度化、深化する「基礎科目群」、③支援対象者の特徴を理解し、それに応じた援助法を修得する「発展科目群」、④修士論文作成のための高度な研究実践能力を学習する「特別課題研究」の4領域である。すなわち、十分な臨床実践力と科学的思考を備えた、個人・集団・社会の要請に応えうる心理支援者を養成するための体系的な教育課程を編成している。

なお、本研究科は、公認心理師ならびに臨床心理士養成の指定科目に対応しており、基礎から応用へと学修を積み上げ、かつ多様な心理支援領域への展開を可能とすべく科目を配置している。令和6年度の修了生は、いずれもそれぞれが希望する領域へと就職しており、人の心と社会に貢献する人材を輩出する教育内容を備えていることが示されている。

III. 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

心理学研究科は、公認心理師、臨床心理士として心の健康を支援する人材の養成を目的としている。そのため、入学生には学修成果の達成に必要な基礎的知識や論理的思考力、および明確な目的意識と学修に取り組む準備状態としての心身の安定性を求めており、次のような方法で入学者の選抜を行っている。

一般選抜入学試験（一般学生・社会人・外国人留学生）では、①研究計画書の提出及び評価、②専門科目（心理学）と英語に関する筆記試験、③心理支援者としての人間的資質および適性について書類選考及び口述試験による確認を行う。令和6年度に一般選抜で入学した学生は6名である。いずれも入学後に意欲的に学修に臨み、確実に学修プロセスを進めていることから、一般選抜入学試験は適正に実施されたと評価することができる。

（大川 一郎・佐々木 美恵）

3 - 3 教育実施体制

令和6年度は、専任教員及び客員教員を併せて、16名の教員で授業・研究指導を行った。
それぞれの詳細は、次の通りである。

3 - 3 - 1 専任教員

No.	氏名	職位
1	大川 一郎	教授
2	藤枝 静暁	教授
3	安崎 文子	教授
4	遠藤 寛子	教授
5	佐々木美恵	教授
6	羽鳥 健司	教授
7	原 恵子	教授
8	伊里 綾子	准教授
9	川久保 惇	准教授
10	泉水 紀彦	准教授
11	米村 朋子	准教授
12	中谷 隆子	講師
13	森 裕幸	講師

合計 13 名

3 - 3 - 2 客員教員/兼任教員

No.	氏名	職位
1	柴田 勲	客員教授
2	古曳 牧人	客員教授
3	片岡 岳	非常勤講師

合計 3 名

3-3-3 担当授業科目・研究指導

各教員の担当授業は、以下の通りである。

埼玉学園大学大学院 心理学研究科臨床心理学専攻修士課程 授業科目及び担当教員

科目区分	科目名	担当教員
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎
	臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司
	臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵
	臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子
	臨床心理基礎実習Ⅰ	伊里 綾子/藤枝 静暁
	臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵/大川 一郎
	心理実践実習 A	羽鳥 健司/伊里 綾子/ 遠藤 寛子/大川 一郎/ 佐々木美恵/泉水 紀彦/ 中谷 隆子/藤枝 静暁/ 森 裕幸
	心理実践実習 B	森 裕幸/中谷 隆子
	心理実践実習 C	遠藤 寛子/伊里 綾子/ 大川 一郎/佐々木美恵/ 泉水 紀彦/中谷 隆子/ 羽鳥 健司/藤枝 静暁/ 森 裕幸
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習 D）	泉水 紀彦/羽鳥 健司
	臨床心理実習Ⅱ	中谷 隆子/伊里 綾子/ 大川 一郎/佐々木美恵/ 泉水 紀彦/羽鳥 健司/ 藤枝 静暁/森 裕幸
基礎科目群	データ解析法特論	米村 朋子
	臨床心理学研究法特論	森 裕幸
	教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	藤枝 静暁
	発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎
	人間関係学特論	川久保 惇
発展科目群	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	片岡 岳
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲
	犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人
	健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子
	心理療法特論	羽鳥 健司
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子
	学校臨床心理学特論	中谷 隆子
	グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁
	産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	川久保 惇
研究指導	特別課題研究Ⅰ・Ⅱ	大川 一郎/藤枝 静暁/ 安崎 文子/遠藤 寛子/ 佐々木美恵/羽鳥 健司/ 原 恵子

3-3-4 カリキュラム

本研究科の教育課程の具体的目標は、高度かつ実践的な心理学の専門知識の習得と対人技術能力の育成にある。より具体的にはさまざまな心理的問題を抱える人に深く関わる共感能力と質の高いコミュニケーション能力を有し、そうした資源を駆使して、個人及び組織・地域からの援助希求に対して個人的な心理支援とともに組織的で協働的な心理的支援ができる公認心理師、臨床心理士の養成である。

これらの目的を達成するために、「基幹科目群」、「基礎科目群」、「発展科目群」、「研究指導」の4科目群で教育課程を編成している。具体的な編成は以下の通りである。

【教育課程の概要 心理学研究科 修士課程】

学位又は称号	修士（心理学）	学位又は研究科の分野	心理学関係	
卒業要件及び履修方法			授業時間等	
必修科目 33 単位を含め、43 単位以上を修得し、かつ、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。 心理実践実習 A・B・C および臨床心理実習 I（心理実践実習 D）の総時間は 450 時間以上とする。			1 学年の学期区分	2 学期
			1 学期の授業期間	15 週
			1 時限の授業時間	90 分

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習
基幹科目群	臨床心理学特論Ⅰ	1	2			○		
	臨床心理学特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1	2			○		
	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2			○		
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2				○	
	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2				○	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	1					○
	臨床心理基礎実習Ⅱ</							

3 - 3 - 5 時間割表

令和6年度 埼玉学園大学大学院 心理学研究科時間割表

【春期】

	月			火			水			木			金		
時限	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1限 9:00 ～10:30				臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	佐々木美恵	研修教室				臨床心理基礎実習Ⅰ	伊里 綾子 藤枝 静暁	研修教室	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	藤枝 静暁	研修教室
2限 10:40 ～12:10	臨床心理学研究法特論	森 裕幸	研修教室	障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	安崎 文子	研修教室				臨床心理基礎実習Ⅰ	伊里 綾子 藤枝 静暁	研修教室			
3限 13:00 ～14:30	犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	古曳 牧人	研修教室	臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	研修教室				臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	羽島 健司	研修教室			
4限 14:40 ～16:10	学校臨床心理学特論	中谷 隆子	研修教室							データ解析法特論	米村 朋子	505			
5限 16:20 ～17:50															
6限 18:10 ～19:40															
7限 19:45 ～21:15															

1) 「特別課題研究Ⅰ・Ⅱ」は、主指導教員と院生との協議により、時間を決めて行うこととする。

2) 「心理実践実習A～C」「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習D)」「臨床心理実習Ⅱ」は時間割外集中科目として適宜実施する。

3-3-6 院生数

今年度（令和6年5月1日現在）本学大学院に在籍する院生の詳細は、以下の通りである

総数、入試形態別人数、年齢別人数、男女別人数

① 総 数 12 名

② 入試形態別人数（名）

	一般選抜	学内選抜
修士課程1年	5	1
修士課程2年	5	1

③ 年齢別人数（名）

	22 歳～25 歳	26 歳～30 歳	31 歳～35 歳	36 歳～40 歳	41 歳～
修士課程1年	6	－	－	－	－
修士課程2年	5	－	－	－	1

④ 男女別人数（名）

	男性	女性
修士課程1年	2	4
修士課程2年	3	3

3-3-7 研究題目一覧

<修士課程1年>

- ・大学生を対象とした状態本来感の高低に関する検討と「自分の心を見つめなおす」ことによる影響
- ・高齢者施設の職員に関する課題の検討
- ・毒と呼ばれる親一子どもの自己主張に与える影響
- ・現代の高校生の進学先選択における時間的信念と時間的展望、アイデンティティ形成に適応的なキャリア教育についての検討
- ・中高生のいじめ傍観場面での仲裁・相談行動を促進する個人要因の検討
－友人の親近性と性差に注目して－
- ・解離傾向と攻撃性の関連におけるメンタライジングの媒介効果

<修士課程2年>

- ・大学生の相談抑制過程の解明と短期的ピア・サポートの効果
- ・自己の多面性への動機がアイデンティティ形成に及ぼす影響－セルフ・コンパッションの可能性に着目して－
- ・セルフ・コンパッションとその関連要因の検討－アタッチメント、ウェルビーイングを中心に－
- ・重要な他者への愛着と自己への思いやりが一人でいられる能力へ及ぼす効果
- ・小・中学校教員の保護者に対する評価懸念がバーンアウト傾向に及ぼす

3-3-8 履修状況

履修状況及び定期試験実施方法は、次の通りである。

【春期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	6
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司	6
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵	6
臨床心理基礎実習Ⅰ	伊里 綾子/藤枝 静暁	6
データ解析法特論	米村 朋子	6
臨床心理学研究法特論	森 裕幸	6
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	藤枝 静暁	6
犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人	6
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子	6
学校臨床心理学特論	中谷 隆子	6

【秋期】

科目名	担当者	受講者数
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	6
臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦	6
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	6
臨床心理基礎実習Ⅱ	佐々木美恵/大川 一郎	6
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎	6
人間関係学特論	川久保 惇	4
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	片岡 岳	6
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲	6
健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子	6
心理療法特論	羽鳥 健司	6
グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁	6
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	原 恵子	6

【通年】

科目名	担当者	受講者数
心理実践実習A	羽鳥 健司/伊里 綾子/ 遠藤 寛子/大川 一郎/ 佐々木美恵/泉水 紀彦/ 中谷 隆子/藤枝 静暁/ 森 裕幸	6
心理実践実習B	森 裕幸/中谷	

3-3-9 定期試験

【春期】

科目名	担当者	試験内容
臨床心理学特論Ⅰ	大川 一郎	レポート
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	羽鳥 健司	レポート
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	佐々木美恵	レポート
データ解析法特論	米村 朋子	レポート
臨床心理学研究法特論	森 裕幸	レポート
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	藤枝 静暁	レポート
犯罪・非行心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	古曳 牧人	レポート
障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	安崎 文子	レポート
学校臨床心理学特論	中谷 隆子	レポート

【秋期】

科目名	担当者	定期試験
臨床心理学特論Ⅱ	佐々木美恵	筆記試験
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	柴田 勲	筆記試験
産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	原 恵子	筆記試験
臨床心理面接特論Ⅱ	泉水 紀彦	レポート
臨床心理査定演習Ⅱ	伊里 綾子	レポート
発達心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	大川 一郎	レポート
健康心理実践特論（心の健康教育に関する理論と実践）	遠藤 寛子	レポート
心理療法特論	羽鳥 健司	レポート
グループ・アプローチ特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	藤枝 静暁	レポート

3-3-10 実習について

実習については、2年次の履修科目である「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習D）」の学外実習を視野に置きながら、1年次の「心理実践実習A・B」の課外ワークとして、「埼玉学園大学臨床心理カウンセリングセンター（以下カウンセリングセンターとする）」での学内実習と学外の保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行った。

カウンセリングセンターでは、受付業務の研修を行い、相談事例のケースマネジメントを学ぶ。また、相談員とスーパービジョン契約を結び、学習状況によって「可」と判断された場合は担当事例の面接陪席、相談員の補助などを担当し、それに対する継続的なスーパービジョンを受けることにより、事例担当能力を習得する。その技能習得のため、毎週水曜日夕方に実施される受理会議や事例検討会への参加を義務づけた。

学外実習では、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野について臨床心理士が在職する教育・福祉・医療関係の各施設見学とケースワーク等にかかわる研修実習を行った。実習は、下表の12箇所で行われた。これらの活動については、「埼玉学園大学臨床心理学研究」第10巻の活動報告として掲載されている。

【臨床心理実習先一覧】

分野	実習施設
保健医療	医療法人片山会 かたやまクリニック 川口市立医療センター IMS グループ医療法人社団明芳会 板橋中央総合病院
福祉	荒川区立心身障害者福祉センター 社会福祉法人慈徳院 こどもの心のケアハウス嵐山学園 児童養護施設 埼玉育児院 児童発達支援・放課後等デイサービス Moi！東所沢駅前教室 ハッピー浦和駅東口教室
教育	川口市立教育研究所 朝霞市子ども相談室 志木市立教育サポートセンター 越谷市教育委員会 学校教育部教育センター
司法・犯罪	さいたま保護観察所
産業・労働	T-PEC 株式会社 株式会社アドバンテッジリスクマネジメントアドバンテッジ相談センター

4 授業アンケート・授業報告

4-1 授業アンケート実施概要

令和6年度春期における授業を対象として6月に、秋期における授業を対象として12月に、院生への授業アンケートを実施した。対象科目は2名以上の講義科目である。

実施時期

春学期：令和6年6月24日（月）～ 7月5日（金）

秋学期：令和6年12月2日（月）～ 12月13日（金）

実施方法

春学期・秋学期ともに、Formsを用いて回収し、回答形式は、設問に対する自由記述式としている。

回答学生数

春学期：アンケート回収数 58／履修者数（延べ人数） 68 （回収率 85%）

秋学期：アンケート回収数 66／履修者数（延べ人数） 67 （回収率 98%）

実施結果

結果は次項からの記載内容の通りであるが、全般的にきわめて満足のいく結果を得ることができた。授業アンケート用紙は参考資料として掲載している。

4-2 教員の授業報告

教員の授業報告は、担当した科目ごとについての教員による自己評価を行ったものである。

4 - 2 教員の授業報告

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 大川 一郎

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学特論	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・心理学が好きだからです ・臨床心理学が実際に人々の生活にどのように活用されてくるのかを知るため ・必修科目だったため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・修士論文を作成していく中で、より大きな視点から俯瞰して問題を捉えていくことの大切さを学ぶことが出来ました。 ・研究にも生かせる AI の活用方法を学べた ・心理学が学べました ・臨床心理において、多面的な視点から問題を捉えることの重要性や、文化的背景がもたらす影響の強さを視野に入れておくことの大切さを学んだ。 ・子どもから高齢者までの問題や発達を扱い、知ることが出来たので研究対象者を決めるときにも検討したいと思いました。 ・ミクロとマクロの視点で考えることが必要だと改めて認識できたこと 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・現在の社会で起こっている問題やその背景としてあるもの、政府の対応としてどのような政策・支援を行っているかなど、心理職と関わる社会問題や支援の限界について学ぶことが出来たため、満足しています。 ・ただ臨床心理学について知識を深めるだけでなく、図や動画を通した学びや、普段研究等をする上で便利なツールも知ることができたので、受講できてよかったなと思います。 ・パソコンを使いながらだったので資料も見やすかったし、先生のお持ちの情報もたくさん教えていただけたのでとても満足出来ました。特に AI は今使っているのので教えていただけて嬉しく思います。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・かつての学校の姿をビデオで振り返ってみたことで、子どもたちだけでなく、教員の目線を考えることができた ・ビデオを見る回がありました時代の流れなどわかりやすいものが多かったのでもっと見たかったです。 ・特になし（複数回答）	本科目における重要事項、最前線の動向等について、研究論文、雑誌、Youtube 等の動画等、さまざまな教材等を駆使しての授業展開に努めてきた。また、当該科目における授業全体の内容についても、現代社会の情勢、研究領域等の状況等も踏まえて、アップデートを怠らないようにしてきた。 概ね、受講生の評価も良く、当該授業において意図した目標が達成されていると判断している。 今後とも、上記姿勢のもと、授業をおこなっていきたい。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 大川 一郎

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
発達心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	秋期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・発達段階を学ぶことで、一般的な発達を学び、心理支援にいかしていきたいと考えたため。 ・人の発達について知っておくことは、アセスメントに非常に役に立つと思ったから。 ・前期に引き続き、人の生涯の発達課題を、社会問題に触れながら理解し、その支援に繋がる知識を得るため ・資格取得、卒業単位の取得のため(複数回答) 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・人と話し合うことのメリットを知ることが出来た。自分の研究は自分の考えをメインで進めていくが、それについて人に話すことで別角度からの意見を知ることが出来たり、それを基にさらに発展させることが可能だと理解できた。 ・研究の進め方や考え方を学んだ。 ・老年期を中心とした発達段階がわかったことで、アセスメントに深みが増した気がします。 ・主に、高齢者を対象とした臨床の基礎を学ぶことができた。 ・成人期～老年期の発達課題を学び、臨床場面において実際に関わる上での問題を考えることができた。 ・研究よりも、50代60代が抱える課題や高齢者の発達課題を学ぶ機会を得ることができました。動画や新聞を用いた事例説明はとてもためになり、普段何気なく見ている情報を細部まで見ていき、背景要因まで考えるようにすると、起きている問題の本質を見れるようになりました。この視点は、実際のケースを捉える際にも役立っており、多角的な視点でとらえることによってどのように援助につなげていくかを考える基礎的な部分を担っているもので、この講義を通して視点を広げられたと感じています。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・動画や図、表を用いたものが多いので視覚でわかりやすいです。事例検討もあり、個人で考えることとグループで考えときの新たな発見がありました。 ・高齢者に対する支援のイメージが、これまで持っていたものと大きく変わり、理解が深まったのでよい経験となった。 ・実際のシニア世代や後期高齢者の話を伺うと、決して自分たちに関係のない問題ではないことに気づかされました。今後、私たちが支援を行う側に回るときには、今回学んだ知識を生かし、C1やC1の家族にとって何が幸せなのかをしっかりと考えていきたいと講義を通して思いました。 ・満足できた(複数回答) 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし(複数回答)	・生涯発達の視点から、発達に関わる問題、教育に関わる問題を俯瞰して見るように意識して授業を展開している。 ・また、教育に関わる問題は時代的変化とそれに国の施策等、影響されることが大きいので、時代的な変化に伴う人の変化、施策の変化等についても、長期的スパンで考えることができるように意識して授業の展開をしている。 ・講義内容を、理解しやすいように動画、新聞資料、ネット上の資料等、さまざまな資料を取り上げている。 ・できるだけ事例等の紹介も行い、また、適宜、グループ内で検討を行い、他者の意見と自分の意見の共通点、差異点等に気付けるようにしている。 ・授業終了後は、リアクションペーパーにて、必ず学習した内容の振り返りを行い、学習内容の定着、発展を確認している。併せて、次の授業の冒頭で、受講者に対してそれぞれの反応についてのフィードバックを行い、質問等があればそれに答えるようにしている。 ・学生のアンケート結果も概ねこちらの意図に沿った反応になっており、授業自体に対しては、評価できていると思っている。 ・今後、より授業内容をブラッシュアップして、現代的な課題に対する生涯発達の理解、それに根差した対応ができる準備となるような授業を目指していきたい。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 大川 一郎

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究Ⅰ	通年	1	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・各自の研究テーマに即した文献検索が適切にできる ・各自の研究テーマを内外の先行研究と関連づけて、深めることができる ・各自の研究テーマに即した方法論を展開できる ・各自の研究テーマに即した研究計画を作成、実施することができる ・各自の研究テーマについて、簡潔明瞭にプレゼンテーションを行うことができる	1年間に渡り、修士論文の完成に向けて、問題の設定、文献研究、目的の設定、方法、実施、分析、論文としてのまとめ等について、個別の指導をおこなった。課外での指導も行った。
特別課題研究Ⅱ	通年	1	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・各自の研究テーマに即した文献検索が適切にできる ・各自の研究テーマを内外の先行研究と関連づけて、深めることができる ・各自の研究テーマに即した方法論を展開できる ・各自の研究テーマに即した研究計画を作成、実施することができる ・各自の研究テーマについて、簡潔明瞭にプレゼンテーションを行うことができる	1年間に渡り、修士論文の完成に向けて、問題の設定、文献研究、目的の設定、方法、実施、分析、論文としてのまとめ等について、個別の指導をおこなった。課外での指導も行った。当該学生は、無事修士論文を執筆、提出し、無事、合格となった。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 羽鳥 健司

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理面接特論Ⅰ(心理 支援に関する理論と実践)	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・心理療法ごとの特色や実践での運用方法を学びたいと考えたから ・カウンセリングの場で心理療法を適切に用いるために心理支援に関する理論と実践についての知識を習得するため ・理論を学ぶとともに、事例を元に検討する授業を受けたいと思ったから。 ・公認心理師資格取得に必要なだったから (複数回答) 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・論文をもとにして授業が進んでいくので、論文の構成を知ることができるうえに、先生がその論文をどうみるのかというポイントを知ることができてとても勉強になります。また、先生ご自身の経験もお話していただけるので、実際にケースを持った時のことや研究をしたときのことを想像することができてとても学びになっています。 ・論文を読む際の注意点などを学べたことが役に立ったことだと考えます。また、研究以外の場面では、教科書に載らないような部分を重点的に扱ってくれたおかげで、心理職として働く際には技法だけではなく、構造そのものを大切にしていかなければエビデンスに基づいた支援が出来ないことを学ぶことが出来ました。 ・行動療法やCBTにおいて、C1の理解や意欲、知的能力といった様々な要素が組み合っていないとできないということが伝わりました。ほかの療法を学ぶ時も、それぞれ実施するための条件といったものを把握していこうと思います。 ・技法を身につけてそれを実践したいと思いがちですが、そうではなく、基本的なことを最初に学ぶ姿勢が大切だと思いました。研究にいかせるかはまた難しいですが、自分がケースを担当する時や、将来に活かしていきたいと思えます。 ・今まで自分の中で心理療法の理論と技法が実践と結びついていなかったけれど、先生の講義や事例を通して、理論やその中で活用される技法がどのようなクライアントにどのように実践されているのかを学ぶことができた。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・特に、講義の中で若いときに陥りがちなミスや実践報告を行っている論文を読む上での注意点、技法ではなくその前段階である心理教育の重要性といったことを羽鳥先生の体験を交えて教えてくださるので、本では学べないことを学習できる時間となっており、とても有意義で今後のためになる講義だと感じています。 ・先生の熱意が伝わった。後期の授業も楽しみです。 ・自分が担当したものについては特に理解が深まりました。理論→事例の流れがわかりやすく、取り組みやすい講義でした。それにとどまらず、羽鳥先生の実体験を伺うことが出来たり、院生に対してフィードバックをくださったりしてくれて、学びが深まったと思います。そのため、授業は大満足です。 ・なんとなく曖昧に受け取っていた理論や実践がはっきりした ・臨床場面での様々な事例に触れ、療法の特徴やクライアントへの関わりについて大きな学びを得ました。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・来年の学生もこの授業を経験できると良いなと思います。 ・昨年からの理論説明と論文講読の回を設けるようにしているとのことでしたが、ぜひ続けていただきたいです。心理療法の説明だけでは、教科書的な知識しか入りませんが、論文の内容を踏まえた先生の実体験のお話や解説も加わることで、体系的な理解が進みました。また、あまりよくない内容の論文でも、それを読まないのではなく、何がよくないところなのかを解説していただけるので、初学者の私たちでも、注意しないといけない点を理解できて、とても有意義なものになっていました。 ・理論を学んだあとに論文で事例を学ぶスタイルがすごくいいと思います。また、教科書の知識だけではなく羽鳥先生の実体験に基づいたお話がきけるのもとても有意義なため、私は来年以降もこのやり方がいいと思います。	机上の理論や暗記だけではなく、実際の心理臨床を立体的に理解できるように心がけた。目新しいことや最新の技法は、実は伝統的な技法のごく一部を組みなおしただけにすぎず、より重要なことは基礎や土台を身に付けることであると、言葉や品を変えて繰り返し伝えた。教科書的な理論を復習した後で、事例論文を読み、理論がどのように活かされているのか、実際の心理臨床はどのように進んでいくのかを、教員自信が担当したケースを用いながらじっくりと解説した。昨年度から分かったことだが、学生は教員が実際に経験した心理臨床に強い興味を抱いていることを感じた。今回のやり方が好評だったので、来年度以降もこのやり方を継続していきたい。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 羽鳥 健司

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心理療法特論	秋期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・心理療法について学びたかったから。(複数回答) ・資格取得、卒業単位の取得のため ・公認心理師資格取得のため。 認知行動療法を実際に見て学び、自分もやり方を学びたいと思ったため。 ・認知行動療法の実際のカウンセリングの流れや、対応の仕方など、基本的な考え方と、基礎的なスキルを身に付けるために履修した。 ・春期で学んだ認知行動療法についてさらに詳しく学び、自分でも実施できるように経験を積みたかったと考えたから。 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・認知行動療法の基礎を知ることができた(複数回答) ・初学者がCBTをやる際は指導者のマニュアルを真似することから始まるものですが、ただ真似していくだけではなく、その回で行うことの理解とそれをC1に誤解のないように理解してもらえ伝える必要があるとわかりました。学んだことをそのまま勢いでC1に話してしまうことは、自分の主観で分かりやすいとは限らないし、ペースを考えないことでC1がついていけなくなってしまうこともあります。そのため、練習を重ねてC1に伝わるやり方を模索することが課題と知ることが出来ました。 ・心理士としての心構えや最初の部分の認知行動療法のやり方について学び、心理士として支援する時に役に立つと思います。 ・基礎から方法論を学ぶことで、実践的なCBTをより具体的にイメージすることができた。また目標設定や、原理の説明などの進め方を学び、モデリングをして、実際にやってみることで、よりCBTの理解に繋がった。 ・研究よりも、実際の臨床場面で役立つ知識を学べたように感じている。認知行動療法を実施する際に押さえておきたい情報や原理説明の仕方などロールプレイを通して学ぶことができた。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた(複数回答) ・説明を聞いているとわかった気ややれそうな気持ちになりますが、実際にやってみると上手くいかないところや分かっていなかったところが浮き彫りになり、そこが課題だと思えることが出来たからです。やり方を学ぶと共に心理士としてのあり方も学ぶことが出来ているため、いかしていききたいと思います。 ・実際にCBTの講習のような形で、繰り返し流れを確認しながら、それぞれの段階ごとに講義、ワーク、モデリング、実践を体験できたので、とても覚えやすく、実際のカウンセリング場面をより具体的にイメージできるようになった。また実践してみることで、自分の向き不向きも少しわかった気がしたので、今後の自分の方向性を決める1つの良い経験に繋がった。 ・講義内で認知行動療法のロールプレイを行うことによって、クライアントに伝える際のニュアンスの注意点や先生自身が上手くいかなかった部分のお手本を見せてくれるので、教示方法をわかりやすく取り込むことができたように感じています。また、講義でロールプレイを行うときも、失敗しても大丈夫ということをお手本で伝えてくれたことや自身の経験から初めから上手くいく人はいないと話してくれたことによって、失敗に対するハードルが下がりロールプレイがやりやすかったように感じました。 ・先生がお手本を示してくれた後、実際に一人一人ロールプレイを行う時間があつたので、知識的な部分だけでなく実践的なスキルが身についた。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし(複数回答)	主として精神科クリニックを受診するうつ病、不安症、恐怖症などの神経症水準の外来患者を対象とした認知行動療法の実施方法について、独学では学べないものの、最も重要な基礎を伝え、身に付けられるようにすることを目的とした。 教員が実際に行った事例を解説し、最初のセッションから順番にまずは教員がやって見せて、次にやっていることの意味や目的を解説し、理解ができてから教員が患者役をやってロールプレイをさせ、間違えているところやできないところを反復練習させ、できた時には正の強化として褒める、を繰り返した。また、失敗を恐れてチャレンジをしないことが、最も学習を阻害する要因であることを教え、チャレンジした結果失敗することに全く問題はなく、失敗から学ぶことが重要であり、時間の許す限り再度チャレンジさせるようにした。更に、可能であれば講義内で理解したり失敗したりしたことを自主学習して、苦手な部分を明確にするよう伝えた。 実は、一連のこの手順こそが、モデリング、心理教育による理論の理解と納得、相談室内でロールプレイで練習、正の強化、ホームワーク実践による患者の生活圏内での実証実験、という認知行動療法によるスキル習得のためのプログラム学習そのものであることを教えた。専門書に記載されているスキルや技法を単独で切り取って使用しても、ほとんど効果は見込めず、有名な技法も、この一連の手続きの一部にすぎず、むしろこの順番や「型」を身につける方が重要であることを伝え、反復練習させた。受講生からのフィードバックでは、概ねこのことが理解され、好評を得ているようであった。また、専門書を教科書として使用した講義よりも、教員が実際に経験して身に付けていることを知りたいと思っている受講生が多く、これも好評を得ていることが分かった。来年度以降もこのやり方を続けていきたい。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 羽鳥 健司

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心理実践実習 A	通年	6	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・心理支援を要する者のニーズを把握し、アセスメントに基づく心理支援の計画を立てることができる。 ・心理支援を要する者に、適正な手続きによって心理検査を実施し、所見書の作成、およびフィードバックを行うことができる。 ・公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務を理解することができる。	臨床心理士、公認心理師として、要心理支援者に対する心理支援を提供する際に、必要不可欠な最も基礎的かつ重要な関わり方を身につけるために、学内の附属臨床心理カウンセリングセンターで実習を通して指導を行った。必要な技能を習得させられたものとする。
特別課題研究Ⅱ	通年	1	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・研究課題を明確にし、課題に到達するための計画を立てることができる。 ・研究課題を達成するための方法を検討し、実施することができる。 ・研究課題に即した分析を実施し、修士論文を作成することができる。 ・作成した修士論文に基づいて、明瞭簡潔にプレゼンテーションすることができる。	心理学的な実証研究論文の手順に則って、問題と目的を明確にして、検証したい仮説を立て、目的に対応した方法でデータを取得して分析し、その結果を読んで仮説は支持されたのか、どのような知見が得られたのか等を考察できるように指導した。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 佐々木美恵

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・ 主要な検査方法や読み取り方について学び、所見書を作成できる力をつけるため。 ・ 心理検査をとれるようになりたかったからです。 ・ 必修授業の為（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・ 研究には関係ありませんでしたが、検査内容の読み取り方や所見書でどの部分を重視して書いていけば良いかなどを学ぶことが出来ました。 ・ 検査がとれるようになり、知能という概念に関する理解も進みました。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・ 今後、必要となってくる検査方法や各検査シートや所見の読み取り方などを学ぶことができ、作成した所見書を先生が丁寧に添削を行ってくださるので、所見書の修正を通して正しい書き方や作成する際に必要な情報の取舍選択について学べる良い機会となっています。 ・ 個別指導で訂正箇所を丁寧にフィードバックしてもらえたので、自分に何が足りないのか分かり、心理査定報告書の書き方のコツが見えてきました。 ・ 満足できた（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・ 特になし（複数回答）	・ 各種心理検査の理論的相違を明確に理解し、ニーズや主訴に応じて主体的に使いこなす力を修得してもらうことを目標として指導に努めた。 ・ 4回の心理検査報告書作成は履修生にとってハードな内容ではあったが、履修生が頑張っ取り組んだだけの学びを返せるように、実践的かつ丁寧な個別指導を心がけた。 ・ 実際の臨床事例での心理検査報告書をモデルとして示すことで、実践で求められる結果解釈の仕方や報告書作成の要点を、より明確に伝えることができたと思う。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 佐々木美恵

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学特論Ⅱ	秋期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 - 臨床心理学は大事だと思ったからです - 精神分析の基礎理論を学ぶことを通して、どのように臨床を行うべきかの知識を得るため。 - 資格取得、卒業単位の取得のため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 - 精神分析の考えがセラピストの内面を検討していく際に役立つということを理解しました。これまで精神分析については、抽象的な考えで文字で理解することではかしていませんでした。この授業を通じて、セラピーはCI と Th の関係によって生じる、セラピーの中で生じる Th の素直な思いには意味があり、なくすものではない、役立てていくものなんだと理解しました。これからのケースについて自分の感情に素直に気づいてもいいんだと自信につながりました。 - 精神分析の考え方は難しいと思っており、知識に留まっていたのですが、臨床にとってもいきるもので、私たちにも身近なところもあるのだと思いました。 - 精神分析の理論について知ることができました。また、各精神疾患についてのまとめは、その疾患について知るだけでなく、議論を通して改めて考えるきっかけになり、非常に学びになっています。 - 精神分析の基礎理論を学ぶことで理解が深まり、これまで精神分析に対してもっていたイメージが変わった。また、実際の学内実習でケースが決まった時の基礎的な考え方、動き方を知ることができた。 - 精神分析的な知識が深まった。また精神分析的セラピーの進め方について、実践にそくした学びを得た。 - 研究よりも実際の臨床現場に立つ際の練習として役立つ気がする。講義内で、インテーク面接とアセスメント面接を行う練習ができたので、実際にどういった準備が必要なのか、自分自身の改善点などが講義を通して学べたと感じている。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 - 事例から、先生が行っているセラピー・精神分析の様子をうかがうことが出来て満足だった。 - 私たちに質問しながら授業が進むのでより考えることが出来ると思います。資料もわかりやすく、学部の時よりも知識が増えた気がしました。皆が発表者となってやる講義ではまとめることで自分の知識になり、きいて疑問を話し合うことでより深い学びになると感じました。 - 実際の学内実習に必要な基礎的な考え方を学ぶことできたとともに、佐々木先生が過去に受け持った事例を通して、より具体的に臨床場面について知ることができたので、とてもよい経験となった。 - 今回はセンターを想定した模擬面接だったが、今回学んだ経験は今後に生きる経験となったと感じているので、授業には満足している。また、先生自身が実際に行ったケースを拝見する機会をいただき、実際の CI と対面した時に大切にすべき感覚についても学べたと感じている。 - 満足できた（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 - 特になし（複数回答）	・精神分析的オリエンテーションに基づく心理面接について、その理論的考え方や方法論に関する講義を行った。同時並行的に臨床心理基礎実習Ⅱが展開されているため、実習科目との連動によって学習効果を高めることを意図した。結果として、講義と実践の相乗効果で、学びの深化と定着につながったと考えている。 ・臨床心理学における今日のかつ重要なトピックを選定して学習し、院生が視野を広く、深くもてるような指導を心がけた。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 佐々木美恵

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理基礎実習Ⅱ	秋期	6	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・インテーク面接から治療契約までの一連のプロセスについて、その方法と留意点を理解し、説明することができる。 ・ケース記録を適切に作成し、事例検討資料として整えることができる。 ・アセスメントとケースの構造化について、その方法と留意点を理解し、説明することができる。 ・事例検討において、臨床心理学ならびに心理療法の理論に基づいて、自らの考えを述べることができる。	・心理面接の一連のプロセス（インテーク、アセスメント、治療契約、面接記録作成）について、教員の実際的手法を軸として、ロールプレイと振り返りなど実践的に指導することを意識した。 ・学内外での臨床実践への導入科目として、各自の意識を高め、個々の課題と必要な学習内容が明確になるような指導を心がけた。 ・心理アセスメントのプロセスについて、理解が深まるように事例（幼児、高齢者等）に基づき、グループワークも含めて考え、解を提示するようにした。 ・心理テストの標準化の過程、改訂の必要性について、田中ビネー知能検査VI(2024)を軸にして、具体的な開発過程を話し、心理テストの効用、限界について理解が深まるようにした。
特別課題研究Ⅰ	通年	2	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・佐々木先生の指導を受けたかったから。 ・修士論文を作成するため 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・指導を通して修士論文が一步一步進んでいるような気がしています。 ・研究の方向性やどのように調査を行うかなどを主指導の先生と協議で来たことが大きい。私一人では、修士論文を作成していくうえで袋小路に入ってしまうことや何を行うべきかがわからず迷走してしまうことがあるので、主指導の先生に指導していただく時間を取っていただきとてもありがたく思っている。また、修士論文の研究に関係がありそうな論文や役立つ情報なども教えていただく機会が多く、とても参考になったと感じている。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・修士論文を作成していくにあたり、親身になって指導していただきありがとうございます。先生からのご助言は修士論文を作成していく中で参考になる部分が多く、とても励みになっております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。	・院生個々の学修状況や進捗度を考慮し、必要な情報の提供や十分なディスカッションの時間の確保等、労を惜しまずに指導を行った。 ・発表会前には綿密な指導を行い、予演を繰り返し行うことで論理の整理と研究のブラッシュアップに努めた。

教員の授業報告

心理学研究科

職 名 講師・教授

氏 名 伊里 綾子・藤枝 静暁

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理基礎実習Ⅰ	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・今後の面接場面を想定したスキルを磨いていきたいと考えたため。 ・必修科目であった為（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究には直接かかわっていないものの、面接の中で扱うスキルや自分に足りない部分を見つめなおす機会を得ることが出来ました。 ・カウンセリング方法を学んだり、自分のやり方に関するフィードバックを受けたりとても有意義な時間です。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・同期や先生からのフィードバックを通して、自身がスキルとして扱っている部分や苦手としている部分を振り返り、改善していく良い機会となっているので、授業に関してはとても満足しています。 ・スキルのロールプレイだけでなく実際の面接練習も何度かあり、通してやってみることで自分の課題が見えてきて良かったです。 ・満足です（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・講義の中で時間が取れば、先生方での面接や先生がカウンセラーとして対応している姿をオブザーバーとして拝見したいと思いました。 ・特になし（複数回答）	実際にカウンセリングのロールプレイをしてみることで、みなさんご自身の特徴や強み、改善点にお気づきいただけたようで良かったです。授業では、安全な環境づくりを心掛け、学生の皆さんがこうした気づきに開かれることができるよう、場の設定や守秘義務等のルールの明示などの工夫をしてまいりました。 今年度は、教員の面接プロトコルを提示したり、モデルを示したりすることも取り入れました。教員の面接での様子を見てみたいという希望もあるため、「これが絶対的な正解ではない」ということをお伝えしたうえで、モデルを示す機会なども増やしていきたいと思います。 伊里 面接技法の他に、入室から着席までのガイド、面接開始時のセリフのリハーサルなども行いました。それは所作を通して、相手を大切にすることということを、体験を通して気づいて頂きたかったからです。面接場面であろうと、お互いに対等人である事を忘れないでください。 藤枝
臨床心理査定演習Ⅱ	秋期	6	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・ロールシャッハ・テストの実施法を理解し、実際に実施することができる。 ・スコアリングの理論を理解し、Scoring Table を作成することができる。 ・解釈についての理論を理解し、テスト結果を解釈することができる。 ・テストの結果および解釈を報告書としてまとめることができる。	本授業では、ロールシャッハ・テストの理論、実施、解釈の基礎を指導するなかで、ロールシャッハ・テストに限らず、アセスメント全般に通ずる姿勢や考え方を伝えられるよう心掛けてきました。特に、質問段階でどのように質問をするかについては、指示的にならず、なるべく被検者自身の言葉を引き出すための工夫を伝えるようにしましたが、その中で、ロールシャッハ・テスト場面に限らず、心理面接場面でのクライアントの主体性を重んじたやり取りの工夫を伝えることができたと考えています。 報告書の作成では、解釈を日常の用語に落とし込む際の難しさを感じている学生が多い様子だったため、次年度以降は、現実場面に落とし込んだ解釈の仕方をより多く伝えられるようにしたいと考えています。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 准教授
氏 名 米村 朋子

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
データ解析法特論	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・修士論文執筆にあたり量的研究を行おうと考えている為、知識を増やしたいと思った ・統計解析のスキルアップのため ・データ分析は心理学に携わる以上必ず必要になってくる技能なので、学ぶべきだと思ったから。(複数回答) ・資格を取るために必要だったから (複数回答) 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・データの分析方法を詳しく知ることができ、自分の研究で使う分析の選択や論文を読んでいるときの統計の理解にとっても役立っていると感じます。 ・量的研究の流れがわかった ・まだどの分析を用いるか決めていないですが授業で行ったように分析、結果を記載したいと思います。 ・様々な分析方法でデータを分析できそう ・今後、研究を行っていくにあたって必要な解析の知識の復習になったことや、SPSS 以外を用いた解析方法について学ぶことが出来た。 ・SPSS 以外の HAD や r の使い方についても学ぶことができた。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・毎回挙げてくださる資料、説明がとてもわかりやすく時間内に授業を終えることができるのでとても充実した時間でした。分析はとても苦手で最初は不安でしたが分かりやすい資料、説明のおかげで苦手意識が少なくなりました。 ・授業内でそれまで自分が触れてきて来なかった解析ツールを扱っていただいたことで、データの解析を行う際に取れる手段が広がったので、今後の修士論文の作成の一助となったと感じています。 ・満足した (複数回答) 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・先生が一对一で指導してくれるのが嬉しいです。 ・毎回わかりやすく楽しい授業でした。統計が苦手な人にとって苦痛になってしまうと思うのですが、とてもわかりやすかったのでこのような授業だととても嬉しいと思います。 ・特になし (複数回答)	本科目は、実証的な心理学研究を行うために必要な「データ解析スキル」を確認及び向上させることを目的として、演習を中心に実施した。シラバスをベースに、学生のレベルに対応した内容に随時修正を加えながら、例えば、未経験の解析手法に取り組みせるなどの要素を増やし、解析の応用力を身に付けてもらうような演習とした。結果、学生の積極的な参加が得られ、最終課題（レポート）の評価も含め、到達目標の 80%以上が満たせたと考えている。 授業アンケートから「複数の統計ツールに触れられたメリット」に関するコメントが得られ、本科目の学修の狙いが伝わったことが確認できた。また、科目で扱うべき内容の多さや複雑さから、得手不得手の個人差が表面化し、各自に応じた適切な速度・内容での指導が行き届かない部分も懸念されたため、可能な範囲で個別指導を行った。結果的に、院生にとって取り組みやすい印象を持ってもらえたようである。今後もさらに院生の学習意欲を向上できる授業となるよう改善を重ねる所存である。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 講師
氏 名 森 裕幸

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理学研究法特論	春期	6	- この授業を履修した理由は何ですか。 - 研究法は必ず今後も使うスキルだと思ったから - 英語論文を読むのに役立つのかなと思ったから - 研究法についてあまり詳しくないため学びたいと思ったから。英語論文を扱うとき、不安もあったがこのような機会がないと自分で取り組みないと思ったから。 - 公認心理師の要件科目だから - 修士論文に取り組むあたり、自分の研究に適した方法を選択するために必要な知識を得るため - 公認心理師受験資格の取得を考えていたからと、修士論文を作成していく中で研究方法や種類ごとの特色を学びたいと考えたため - この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 - 自分の研究を考える際に使える手法が増えました。また、論文を読む際にもどのようなモデルで行われているのかについての理解がスムーズになりました。 - 英語論文を読む際のコツであったり、修士論文のテーマの決め方、大学院生としてどのように振る舞うのかということに役立ちました。 - 研究を進めるにあたり、最初の動機やリサーチクエスチョンを明確にすることの大切さを学んだため、いかしたいと思います。論文の読み方についても簡単に教えていただいたので日本語はもちろん英語のものも読んでみようという気持ちになりました。 - 調べる先行文献の幅が広がったように思う - 様々な研究手法を学び、それぞれの理論やメリットデメリットなどを学び、ある程度修士論文で研究を行うイメージができた。 - 修士論文を作成していく際に気を付けなければいけないことや、論文の収集方法、それまで読んでこなかった英語論文の読み方などを学ぶことが出来た。 - 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 - 後半の学生が発表していく形式の授業は楽しかったです。 - 教科書を読むだけではなく、先生なりの考えや思いを聞くことが出来たのでただの座学では無い経験が出来ました。発表については、ペアで進めるという作業が少ないためいい経験になりました。自分が普段読まない論文に触れることも出来、いい経験になりました。 - 英語論文は最終的に修士論文に取り入れなければいけないにしろ、ハードルが高くて先延ばしにしがちなところがあるので、授業を通して向き合うことができて良かったなと思いました。 - 修論の進みを発表した中で、自分が気づけていなかった課題を見つけることができたことや、現状の進み具合を把握することに繋がったので、満足できた - この授業について、要望があれば記入してください。 - 英語論文を読むエネルギーが大きいので、3回も読まないといけないのはしんどい。 - グループでという要望を出してしまったのですが、英語論文は個人で取り組む形がよかったと思いました。要望を聞き入れていただきありがとうございます。 - 発表の時間配分がうまく管理されなかったことが度々ありました。あまり長くない昼休みの時間がさらに大幅に短くなってしまったこと、せっかく発表の準備をしたのに全て発表しきれなかった人がいたことはとても残念に思います。授業の進捗に合わせた柔軟な対応や、無理のない授業構成を強く期待します。 - 英語論文2回、自分の修士論文についての発表2回の発表用パワーポイントを作るのは、他の授業の発表課題等を考えるとやや大変だと思います。特に英語論文はせっかく授業を通して向き合う機会をいただけるので、焦るばかり内容理解よりも発表を間に合わせるのが優先的になってしまうのでは勿体無いと思います。 - 授業内の課題として、英語論文を3本と修論の進みを2回発表する機会があるのですが、少し課題の量が多いと感じたため、課題量や発表回数を調節していただきたいです。	本授業では、初回のオリエンテーション時にシラバスに則って本授業の目的、内容、スケジュールについて説明を行った。本授業では、臨床心理学研究法について最低限身につけておくべき知識を習得できるよう設定しているが、各々が研究を行うにあたり必要な知識や課題等については異なることを考慮し、極力学生の主体性や自主性を尊重するよう、以下の点において心がけた。 - 授業内容について、学生の自主性を尊重する形で、教科書に則した研究法については、教員による講義形式もしくは履修学生による該当する内容をまとめた発表形式で行うかについて、選択をさせていただいた。 - 第8回以降の発表の仕方や順序についても学生と協議した上で決定した。英語論文を読んだ経験についても事前に学生に確認した上で、授業内で講義時に扱った研究法を使用した英語論文と一緒に読み進め、英語論文の読み方について実例を示しながら教授した。 - 各学生が発表する英語論文については、学生の主体性を尊重することに加え、修士論文計画に役立てられるよう、学生が自由に選択できる設定とした。 本授業における課題としては、学生のアンケート内容にある通り、課題量と授業のタイムマネジメントである。 - 課題量については、他の授業や各ゼミの進捗状況及び学生個々人のスキルやキャパシティによっても適切な量は異なるが、授業到達目標に必要な課題量は設定しつつも、適宜学生の意見を聞き、調節可能な範囲で調節する必要があると考えた。 - タイムマネジメントについては、発表時間を厳密に決め、守るよう授業内で確認をし、教員が管理するべきであった。各学生の発表が公平にできるように授業全体をマネジメントしていけるよう改善をしていきたい（発表時間 25 分、質疑応答 10 分）。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 講師
氏 名 森 裕幸

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心理実践実習B	通年	6	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 - 心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を説明することができる。 - 心理支援を要する者に対するアセスメントとそれに基づく心理支援の実践的スキルを身につけ、実際の心理支援に活かすことができる。 - 多職種間、地域での連携におけるチームの一員として公認心理師が果たす役割、知識、技能を実践することができる。 - 公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務、および現場での実際的な対応を理解し、心理支援を要する者と適切に関わることができる。	まず、実習施設における管理運営の理解促進・多職種連携については、実習開始前のオリエンテーション及び事前学習を充実させ、各施設の特徴や役割、関連法規、心理職及び他職種について詳細に学習する機会を設けた。アセスメントと支援技能の習得については、見学及び体験実習において実習指導者より直接的に指導を受けるだけでなく、実習巡回時と事後指導において、アセスメントの視点やクライアント等の理解について具体的な指導を行い、学生が実践的なスキルを習得できるよう工夫を重ねた。また、職業倫理や法的責任の理解については、守秘義務や個人情報保護などについて実習開始前の事前指導を徹底して行い、実習中も実習巡回時に具体的な場面に即して倫理的判断の指導を行い、実践的な理解を深められるよう努めた。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 藤枝 静暁

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
教育心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・教育現場で働く心理師がどのような支援を行っているのかを学びたいと考えたから ・教育に関する心理が学べると思ったから ・教育分野の仕事に携わりたいと思っているので、受講を希望しました。 ・先生が実際に活動されている教育現場の話を聞きたいと思ったから ・公認心理師資格取得に必要なため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究には直接関係はありませんでしたが、学校で扱われている心理支援や支援を実行していく中で重要な点など、相談室以外の心理職と学校との働き方について学ぶことが出来たと感じています。 ・現場での経験に基づいたお話をしていただけるので、とても助かります。 ・学校という教育現場において、こういった役割・役割がどのように機能することによって、授業や活動が成り立っているのかを知るとともに、SWPBSについて実際の現場をイメージしながら学ぶことができた。 ・教育現場ではどのようなことが課題でどのようなことが求められているのか修士論文のヒントになる気がします。生徒指導提要など、自分がやりたいと思う研究の根拠になるものも教えていただけたので活かしたいと思います。 ・学校現場で起きていることから、研究を現実的に考えられるようになった 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・サイコドラマの回では様々な状況を想定した振る舞いの練習ができて良かった。 ・学校現場で心理師が求められていることや、学校内で支援を行っていくうえで必要となりえる知識等を授業内で学ぶことができ、とても有意義な時間でした。 ・実際の学校現場を目にすることはなかなか難しい分、藤枝先生のお話から現場をイメージしながら支援について学ぶことができ、とても良かったです。グループワークもあり、みんなで意見交換できた時間もあって良かった。 ・自分で発表するときにはただテキストを読んでまとめるのではなく、それが実際にどのように使われているのかを考えながら取り組みました。授業内ではグループで話し合う時間も多く、当たり前だと思っていることが意外とわかっていないということに気付かされました。 ・満足した（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・面接の模擬試験のフィードバックができたのがとてもよかった ・特になし（複数回答）	各自が得るものがあつたようで、良かったです。 しかし、子ども、生徒理解は大学の授業では叶いません。現場に行つて、観察し、可能ならばふれ合つて、少しずつ理解が進む感じです。 知識や理想論を持ちつつ、現実の子どもの姿から、必要なことは何かをアセスメントして、支援できる良いなど、日頃なかなかできていない自分への自戒の念を込めて、お伝えします。また、若いうちから、どんどん現場に出て体験することをお勧めします。 皆さんのサイコドラマの前段階のロールプレイは、真剣味あふれる、役に入りきる、見応えのあるものでした。ロールを演じることの意義、楽しさを少しでも感じてもらえたなら、うれしいです。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 藤枝 静暁

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
グループ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	秋期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・藤枝先生の専門とする SST を実践の形で学びたいと思ったため。 ・集団に対するアプローチは、身に着けておくとな非常に有効だと思ったからです。 ・今後心理職になる上で、必要になってくるグループ・アプローチの方法論を実際に体験を通して学び、そのスキルを身に付けるため。 ・資格取得、卒業単位の取得のため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・介入研究において集団を対象で教示をする際に、どのようなリスクが生じるのかを検討することが必要だと学ぶことが出来た。実施前にカンペは作るものの、それ通りにいくとは限らない。そのため、どんなリスクが生じるのかを検討すること、事前の練習を行って意見をもらい、改善を重ねていくことが大事だとわかった。 ・学校単位で考えること、生徒一人一人に目を向けることを学びました。学校を対象とした研究をしたいと考えているので、そのような学級運営の視点を取り入れたいと思います。 ・実践的に SST を学べたことで、将来に活きる気がします。 ・将来的に教育分野もしくは、福祉分野で心理専門職として働くことを考えているので、特に集団 SST がどのように行われるかを体験することを通して、実際の現場でのより具体的なイメージをもつことができた。 ・実際に就職を目指す分野の臨床場面を想定したロールプレイで、実践的なスキルアップに繋がった。 ・研究よりも実際の臨床現場で役立つ知識を学ぶことができた。実際に SST を受けた後に自分たちで SST を実施することができたので、受ける側と実施する側の違いや事前準備の大切さ、伝え方として注意すべき点などを学ぶことができた。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・個人の SST は見たことがなかったのでとても新鮮でした。集団での SST もやってみると意外とうまくいかないということを身に染みて感じ、知識として学ぶこととそれをいかしていくことの違いを感じました。皆がやる SST も体験でき、人によって特徴があると思うのでいいところや真似できそうなところは取り入れつつ自分のやり方でできたらと思います。 ・実際に自分で SST を計画し、実践し、そのうえでフィードバックを得る機会をいただけたので、とても良い経験になった。 ・現場に出た時にいきなり SST などやるのはかなりの負担だと考える。そのため、講義内で実際に行う機会がもらえ、さらには先生や院生からのフィードバックをもらえる時間はとてもありがたいと感じている。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし（複数回答）	たくさん気づいたことがあったようですね。 皆さん同様、私自身もやってみて、気づくことが多いです。 今年の授業は、私がいまうまくできなかったと感じています。 時間が不足していたのか、進め方が良くなかったのか、私の課題がどこにあったのか探します。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 藤枝 静暁

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究Ⅰ	通年	3	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・修士論文作成のため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・この時間に学んでいることすべてが役に立っています。 ・自分の主観的考えを研究に生かすという視点を得ることが出来た。文献等で知識を蓄えて、そこから自分はどのように考えるかというところが研究において大切だと知ることが出来た。 ・構想発表会を経て、概念や変数を一度すべて考え直すこととなり、再度先行研究や論文、資料を探し直すこととなったが、情報や考えを共有させていただく中で、方向性や、考え方についてご意見をいただき、少しずつ概念や変数が絞れてきた。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・ゼミ生が多い中ですが人数の多さをいかして他の方に意見をもらったり考えたりすることができ、とても有意義だと思います。ゼミの時間もしっかりと設けていただけるので集中して取り組むことが出来ます。次にやることを明確にするまで話し合い、(出来てから)ゼミが終了するので次に取り組むこともわかりやすいです。 ・数々の多様な視点からのご意見をいただき、参考にさせていただいております。自分自身の進み具合の至らなさはありますが、引き続き頑張っていく所存です。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし（複数回答）	課題が多く、大変忙しい中、本当にがんばっていると思います。一緒に学べることは大きな幸せです。 引き続きよろしくをお願いします。
特別課題研究Ⅱ	通年	2	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・修士論文作成のため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・修論に関する知識を教えて頂き大変役に立ちました。 ・修論を完成するためにたくさん意見や指導をいただき、大変役に立ちました。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし（複数回答）	2年間、よくがんばりました。 一緒にいろいろ話し合い、考えた過程で、私の方が学ぶこともたくさんあり、感謝しております。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 客員教授
氏 名 古 曳 牧 人

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
犯罪・非行心理学特論 (司法・犯罪分野に関する 理論と支援の展開)	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・公認心理師受験資格の取得に必要だったから (複数回答) ・興味のある分野が司法、犯罪領域のため学びたいと思ったから ・司法・犯罪領域における、心理専門職の役割を知るため 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・自己制御について修論で扱おうと考えていたので、自己制御能力と犯罪行為との関連性や育む要因として養育環境があることなど、学びになる知見を得ることが出来た。 ・犯罪等につまわる理論に触れることが出来て、視野が広がりました。 ・研究ではないですが、司法、犯罪領域の職業について知ることが出来たので進路に活かしたいと思いました。 ・司法・犯罪における法律や支援について、具体的な場面をイメージしながら、学ぶことができました。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・犯罪を行ってしまう子の特性や予防・再発防止の観点からの支援について教えていただき大変参考になりました。 ・興味があったのでどの講義もよかったのですが、特に職業を知ることが出来たのが大きく、将来について頑張ろうという気持ちが持てました。ホワイトボードに記載しない上方もたくさん教えていただき現場ならではのお話も面白かったです。内容的にもかたくなりがちですが、笑顔で講義していただいたのでいつも楽しみながら講義が出来ました。 ・司法・犯罪という少しとっつきにくさを感じていましたが、先生の講義を受講して、実際の支援のイメージをしながら、司法・犯罪心理について学ぶことができました。 ・満足できた (複数回答) 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし (複数回答)	公認心理師科目であり、これまでほとんどの院生が受講しているが、受講者に尋ねると、これまでは、公認心理師主要 5 領域の中でもあまり関心が強い領域ではないことが多かった。本年度は、司法・犯罪領域に関心を持つ院生が比較的多かったため、アンケート結果にもそのことが影響していると思われる。 授業アンケートの結果を見ると、おおむねこちらが授業で伝えたいと意図した部分は理解されていると思われる。 本年度の受講生も、比較的大人しく、授業内での発言や質問が少なかった。本年度は、ディスカッションの機会を設けることを考えていたが、本務校の業務等の都合で休講が多くなってしまい、事例検討などを行う余裕がなかった。来年度は実施を検討したい。 内容に関しては、もともとあまり体系的な領域ではないため、つながりを説明することが難しい面があるが、引き続き、説明の仕方を工夫していきたいと考えている。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 教授
氏 名 安崎 文子

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
障害者（児）心理学 特論（福祉分野に関 する理論と支援の展 開）	春期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・資格取得のため（複数回答） ・障害について理解を深めることは心理士として働くにあたって役立つと思ったから ・将来教育分野に進みたいという気持ちもあるので、障害を持つ子どもたちを理解したいと思ったから。 ・心理専門職として必要な知識を得るため ・公認心理師受験資格取得要件で必要な科目であり、障害について学ぶ為 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究対象となりうる人たちの障害理解 ・障害やそれに関係する法令についての理解が深まり、役に立ちました。 ・検査内容を授業内で扱ったので、実際にやるという時の参考になった ・授業で学んだ障害の特性や子どもたちに関する法律といったことは将来自分が働く上でいかせると思います。知能検査等も少し扱っていただいたので自分が検査をする時に役にたつと思います。 ・今後、教育の現場で子どもたちと関わる上で、障害をもつ子どもたちがどんな特性を持ってい、どのような関わり方ができるか。検査方法等を学ぶことができた ・障害の特徴や具体例などを学べたので、知見が広がった。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・資料が多く、たくさんの知識を得ることが出来ました。 ・膨大な障害についての情報量を授業を通して一つ一つ詳細に学ぶことができるので、非常に有意義な時間を過ごすことができています。 ・講義内容も良い復習の機会となり、様々な検査や事例を用いて障害について教えていただいたので、満足している。 ・満足した（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・スライドの進みが早い時があります。穴埋めがあるスライドは少し長めに提示してもらえると助かります。 ・先生自身のお話もされていて、とても参考になりました。埼玉学園大学での勤務お疲れ様でした。ありがとうございました。 ・授業内容的には私たちの様子を見ながら行う形式でやりやすい部分もあれば、記入部分があっても、直ぐに次スライドに行くこともあるので、もう少し様子を見てほしい。 ・特になし（複数回答）	特に心掛けてきたこと：スクールカウンセラーになることを希望している学生が多く、いじめや人間関係に興味のある学生が多い。実際に働き始めると、様々なご病気の方に出会うので、偏ることなく、できるだけ多くの障害について説明するよう心掛けた。画像や症例の紹介を多く提示し、学生が興味を持ちやすいよう心掛けた。 できるだけ多くのことを伝えたいと思い、資料の量がどうしても多くなってしまった。授業時間内に終わるか心配になり、早く進めてしまうことがあったので、資料は更に厳選し、ゆっくり進めたほうが良いと思われた。 学生さんには熱心に受講していただき感謝しています。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 講師
氏 名 中谷 隆子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
学校臨床心理学特論	春期	6	- この授業を履修した理由は何ですか。 ・教育分野に興味があったため。 ・学校場面における心理師の動きについてより深く学びたいため。 ・学校現場にSCとして関わっていきたいと考えているため。 ・公認心理師資格取得に必要なため。(複数回答) - この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・教育分野の問題を考えることができたので自分の論文に生かしたい。 ・研究とは直接関係なかったものの、調べてきた資料に対して先生自身の経験からのフィードバックを頂いたので、SCとして働く心理職の実際を学ぶ良い機会となった。 ・自分の研究したい範囲を学校臨床の立場から考え、ディスカッションしたことにより、自分の研究したいことがより深まったと感じた ・学校場面での課題を様々な側面から考えることができ、大きな学びになりました。 ・誰しもが経験する学校での教育に関する話が聞けて、視野が広がりました。 ・本授業を通して学校現場で期待される心理専門職の役割について、実際に学校や児童生徒が抱えている様々な問題と絡めて考えることができたので現場で動くイメージを得ることができました。 - 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・皆が関心を持っていることや考えていることなど意見がきく機会が多く有意義な時間になりました。発表する機会もあったので自分のききたいことをきくことができて学びがより深まりました。正解のない問題や考え続けられない問題が少なくないということを改めて認識し、心理職の難しさを感じましたがその分やりがいを感じました。 ・表面的には知っていた学校領域における問題について自分たちで改めて調べ、実態をより詳しく理解することができたことや、先生自身の経験を交えて意見を教えていただける機会が多かったので、学校領域でのSCに求められていることや実際の動きなどを学ぶことが出来るよい機会を得ることが出来ました。 ・発表の回では毎回発表者の意向に合わせて柔軟なスタイルで対応して頂いたので、自分が発表者の回もそうでない回も、色々なやり方で議論ができたことが良かったです。他の授業でも議論の機会は多くありましたが、この授業での議論が最も充実していたように思います。学校場面での課題を様々な側面から考えることができ、大きな学びになりました。 ・1つの学校問題に対して、ディスカッションをして、自分にはなかったいろんな視点を取り入れる事ができたので良かったです。 ・満足した(複数回答) - この授業について、要望があれば記入してください。 ・院生の希望を取り上げていただき嬉しく思います。フォーカシングも経験することが出来学びに繋がりました。来年も院生が行いたいと思っただけひやっていたきたいですし、微妙な反応だったとしてもぜひ行っていただけると有意義な経験が出来ると思います。院生の発表のときもスタイルをきいてくれてありがとうございます。 ・授業内でフォーカシングを行ったり、調べたことをみんなで検討して話し合ったことで、理解を深めることができた。 ・特にありません(複数回答)	学校という場における臨床心理学的支援に関する知識や技術について、教員から学生に向けた一方向型の講義形式ではなく、教員と学生による双方向型の授業を心がけた。 具体的には、講義中に質疑応答、グループディスカッション、ディベートの時間を多く設けることにより、学生が主体的に考え、積極的に授業内容を理解し定着できるよう促した。 また、学生が現代の学校現場における臨床心理学的課題について自らテーマを選び、自身の見解について探究学習を行い、パワーポイント資料を作成し、発表する課題を設けた。これにより、学生が課題を自ら発見し、その解決方法を模索し、自身の主張について論理立てて他者へ伝わる説明を行う資質や能力を育むことができたといえる。さらに、発表後に教員を含む他受講生と共に質疑応答の機会を設けることにより、教員側の視点のみならず、多角的な視点でもって授業内容や自身の発表について改めて振り返り、学習を深めることを促した。 また、毎回の講義後に各学生の感想や疑問について Forms を利用して収集し、次回授業冒頭でフィードバックを行うことにより、受講生の疑問を解消し、学習した内容を定着化する機会を提供した。 最後に、講義担当教員自身の臨床心理学的支援の実践経験に基づき、授業内容に関連する実践的知識や技術を盛り込み、受講生が体験的に学習できるよう工夫した。本年度は特に、授業担当教員の専門である「フォーカシング」について実践的・体験的なワークを取り入れた。フォーカシングは学校臨床現場でも心理支援に有効な概念及び技法であるが、学外での研修機会は多いとはいえない。したがって、受講生は書籍や文献を通して得られる知識のみならず、より心理臨床現場で利用・活用できる技術を身につけることができたと考える。 以上の工夫により、授業アンケートの「皆が関心を持っていることや考えていることなど意見をきく機会が多く有意義な時間になりました。」「先生自身の経験を交えて意見を教えていただける機会が多かったので、学校領域でのSCに求められていることや実際の動きなどを学ぶことが出来るよい機会を得ることが出来ました」「院生の希望を取り上げていただき嬉しく思います。フォーカシングも経験することが出来学びに繋がりました。」など、満足度の高い感想を得ることができたと考えられる。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 准教授
氏 名 泉水 紀彦

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理面接特論Ⅱ	秋期	6	- この授業を履修した理由は何ですか。 - 様々な心理療法の理論や、方法を知るため - 心理面接について知りたかったから。 - 資格取得、卒業単位の取得のため（複数回答） - この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 - プレイセラピーのロールプレイングを行ったことで、子どものセラピーにどう臨むかを考えることができた。M1の夏になると子どものセラピーに1人で行くことになるが、子どものセラピーをどのように行っていくのかをこれまで学んでいないので、方針や気を付けることが分からず不安であった。しかし、授業でロールプレイングを行ったりすることで、自分のいいところ改善点といったことを理解できたと同時に、子どものセラピーに対する自信がついた。 - 子どもを担当することになるので、プレイセラピーは臨床に活かしていきたい。 - 研究を行っていくうえで、疲れやストレスが溜まることもあるのですが、その時に講義内で学んだ自律訓練法やマインドフルネスを活用することによってリラックスすることができ、リフレッシュの一環として利用することができた。また、講義内で学んだ訓練法を日常的に使用することで、自分の今の体調や感覚をつかみやすくなり、健康管理面でも役に立ち始めている。 - 技法や理論をいろいろ紹介していただけたので、知見を広げることができていますと実感します。 - 実践を通して、理論やその方法を学ぶことができた。特に学内実習にもつながるプレイセラピーを実践することで、自分の改善点を知ることに繋がった。 - 自律訓練法やペアレントトレーニングなど、臨床場面で実際に活用できるスキルを実践的に学ぶことができた。 - 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 - M1から子担を持つことがあるので、プレイセラピーのロールプレイングが今後に生かせそうだと考える。 - マインドフルネスや自律訓練法など、やり方を知っておくだけで今の自分にもできることだと思った。プレイセラピーも先に実施していただけたので自分のやり方や癖等がやる前にわかり、意識することが明確になった気がします。 - 自律訓練法やマインドフルネスなどを学び、正しい行い方を実践したことによって、日頃の疲れやストレスに対するリフレッシュが行いやすくなったように感じている。今回からプレイセラピーの講義を速めてもらったことで、実際に子ども担当になった際の動き方や子どもの臨床場面で自分が持ちやすそうな葛藤なども講義を通して、見つけることができた。実際のケースとは環境は異なるであろうが、いきなり担当するとなるよりも一度体験してから何をやればいいのかを考えるほうが、ケースでの対応方法も考えやすいと考えるので、とても良い学びになったと感じている。 - 実践を通してより具体的な心理療法がイメージすることができたり、院生同士で意見や感想を共有しつつ、フィードバックを得ることができたのでとても良い体験となった。 - プレイセラピーのロールプレイは、相談センターで子供担当を持つ前の練習としてとても良かった。振り返ることで自分の癖や関わりの中での改善点が見えたため、ぜひ実習で活かしたい。 - この授業について、要望があれば記入してください。 - 今後もM1の頃に子ども担当のケースが入りやすい状況が続くのであれば、今回のようにプレイセラピーの講義を前半に持ってきてほしいのではないかと考えた。 - プレイセラピーの振り返りの時間がもう少しあるとありがたかった。 - 特になし（複数回答）	心理師の業務である「面接技法」に関する様々な知識や実践を行う科目であった。知識の理解を前提として、実際に様々な技法を体験的に学び、自分自身が実施者として行えるようになることを目的とした。催眠、フォーカシング、自律訓練法、マインドフルネス、ペアレントトレーニング、プレイセラピー、箱庭療法を体験的に学び、その体験を言葉にして臨床場面で導入できるように説明する力をつけてもらった。 当初はプレイセラピーは講義メインで授業の後半に行う予定だったが、受講生からの要望を聞き他の科目で体験済みのフォーカシングの代わりにプレイセラピーのワークを導入した。受講生（修士1年生）は学内実習で最初に面接担当者になるとき、子どもの担当になることが多く、子どもを対象とした面接で使用する技法がプレイセラピーがほとんどである。しかし、プレイセラピーを体験的に学ぶ機会が少ないとの現状があった。この理由からプレイセラピーのワークを導入したところ、授業アンケート内容からも学生に好評であった。今後は他の授業内容時間との兼ね合いもあるが、プレイセラピーのワークについては十分な振り返り時間を確保する工夫が必要だろう。

教員の授業報告

心理学研究科
職 名 准教授
氏 名 泉水 紀彦

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
臨床心理実習 I (心理実践実習D)	通年	6	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 - 心理支援の実践を行う施設における管理運営の知識、技能を説明できる。 - 心理支援を要する者に対するアセスメントとそれに基づく心理支援の実践的スキルを身につけ、実際の心理支援に活かすことができる。 - 多職種間、地域での連携におけるチームの一員として公認心理師が果たす役割、知識、技能を実践することができる。 - 公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務、および現場での実践的な対応を理解し、心理支援を要する者と適切に関わることができる。	臨床心理実習 I (心理実践実習 D)は、保健医療分野、教育分野における学外実習に該当する科目である。 保健医療分野、教育分野において、実習指導者の指導の下、支援実践実習を行った。公認心理師の遵守すべき職業倫理・法的義務、多職種連携・地域連携への学びを深めた。また、患者や児童生徒との関わりを通して、アセスメント・心理支援のスキルを習得した。実習がよりよくなるように、大学教員、院生、施設側実習指導者が3者で話し合う機会を設けて連携し、授業の改善を行った。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 准教授
氏名 川久保 惇

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
人間関係学特論	秋期	4	1. この授業を履修した理由は何ですか。 - 英語論文を読む機会を増やし、自分の研究にいかしていくため。 - 人間関係について知りたかったから - 英語論文の先行研究を読んで、先生や院生のご意見をいただきながら、修士論文作成に反映するため - 自身の研究に活かせることがある可能性があったから 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 - 自分の興味のある英語論文に目を通すことができるので実際に自分の意見を自分の研究に反映させることができます。 - 論文を読み、発表をすることで、研究に関する分野の知識が広がりました。 - 読んでも分からない点を共有させていただき、ご意見をいただくことで、先行研究の理解が深まった。 - 英語論文を読み発表する機会をいただき、そこで資料作成や発表の仕方などの助言をいただくことができた。また、英語ということで一部読み取れない部分が出た時に、どういう意図で記載されているのかということや海外での研究でメジャーな研究方法なども教えていただく機会があり、とてもありがたく感じている 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 - 自分が研究で使いたいと思っている論文を扱うことができるので、資料を作りながら理解することが出来、授業では皆からの意見をもらうことで見えていなかった視点や理解の足りていなかった点に気が付くことができ、とても有意義な時間だと考えています。他の人の発表の際も意見を伝える時間を多く設けていただけているので考える時間、そしてそれを発表して解決する時間になっていると思います。研究方法や修士論文の進め方なども教えていただけているのでモチベーションにつながっています。 - 修士論文で扱おうと考えているテーマについて、吟味するきっかけにもなったので良い経験になった。 - 自身の研究分野について講義の時間を用いて考えることができ、先生や院生からの意見を交えながら海外論文を読みとる時間を得られているため、自身の研究への知見だけでなく、他の同期の院生のテーマへの知見も深まる良い時間だった。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 - 特になし（複数回答）	本講義では学生の研究関心に合わせた文献を講読し、各自の研究の推進に貢献することを目的とした。講義とディスカッションを通じて、研究や実践を行う上で必要な考え方、高度な専門的知見、ならびに研究スキルについて指導した。具体的には受講生が文献の探索と講読を行い、成果を他の受講生に発表した。その際、全体での討論を行い、理解を深めた。 上記の目的については、授業評価アンケート内容から達成できたと考えられる。一方で、履修者数が4名と少数だったため、各自の発表回数が多くなり、負担が大きい講義だった。今後も教育的効果と受講生の負担のバランスを考慮して、授業運営を進めたい。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 非常勤講師
氏名 片岡 岳

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	秋期	6	- この授業を履修した理由は何ですか。 - 医学分野は苦手という意識があり、あまり勉強してこなかったので知識を得たいと考えたから。 - 心身医学について知りたかったからです。 - 公認心理師の資格取得を目指すうえで、必要な医療保険領域の知識を身に付けるため - 心理師として現場に出た際、最低限の医療知識を持っていたほうが良いと感じたため - 資格取得、卒業単位の取得のため（複数回答） - この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 - 医学的な面からも考える重要性があるということを学び、そこを研究にもいかしていけると考えています。 - 心身医学について知ることができました。 - 医療領域においてどの知識が公認心理師に求められているのかを理解することが出来た。 - 臨床場面における医療分野という、リハビリや、終末期の患者さんへの心理的サポートなどのイメージがあったが、心身症について学ぶことで、医療分野に期待される心理師の役割の視野が広がった。 - 心理臨床や研究を始める以前の部分として、患者のことを理解するための医学的な基礎知識が身についた。 - 研究よりも実際に現場に出た際の知識を学ぶことができたように感じている。また、講義内で片岡先生の所管として、現在の医療現場で求められている心理職の役割というのにも聞けることができ、どういった分野の知識を持っておけば医療現場で役に立つのかを学ぶことができた。 - 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 - 実際の動画や画像を示しながら講義を行ってくれているので視覚でもイメージしやすかった。 - 動画や、先生の体験談などを通してより具体的に心身の疾患のメカニズムや、治療法などを学ぶことができ、良い経験になった。 - 症状の知識だけではなく、実際の現場でどの知識を持っておいたほうが良いのか、医者が心理職に求めることなどをわかりやすく説明してくれているので、とても学びになったと感じている。 - この授業について、要望があれば記入してください。 - 配布資料の中で、外部のイラストや図が省かれてしまっているのが残念に感じている。埼玉学園大学が、資料を配布している機関と契約していないためにイラストや図が配布資料に記載できないのはわかっているが、できれば詳しい図版付きの資料を手元に持っておきたかった。 - 特になし（複数回答）	「心療内科は内科の一分野である」という前提のもと、身体疾患としての心身症について臓器別に論じてきました。講義を進める中で身体疾患に併発する精神疾患についてもニーズがあると判断し、心身医学に加え、リエゾン精神医学に関する事項も織り交ぜるようにしました。いずれも ・すべての公認心理師にとって必要な事項 ・医療に従事する公認心理師に必要な事項 を伝えることを心がけてきました。特に大学院は医療系学部 に似て職業訓練的要素が強いため、臨床に直結した話題の提供を意識しました。 今後の修論作成に必要な文献検索の訓練になることをもくろみ、各回ごとに、講義からヒントを得て興味のある論文を検索し提出することを課題にしました。講義内容が多くなり、論文について学生とディスカッションする時間が取れなかったのは反省点です。 SARTRAS 未申請のため講義に制約が生じたのは残念です。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 客員教授
氏名 柴田 勲

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	秋期	6	1. この授業を履修した理由は何か。 ・将来心理職として働くうえで医学的な知識や薬理の知識を持っていたほうが、クライアントに対する対応や支援を行いやすくなるのではないかと考えたため。 ・薬や精神科については全然学んでいなくて分からないので実際に働いている方の講義を受けながら学びたいと思ったため。 ・医療分野に興味があるため、精神医学について知る必要があると考えたため。 ・今後ケースを担当するうえで、特に精神疾患と薬物療法、そしてそれがもたらす副作用等の関係性を知るため。 ・精神科で扱われる薬について学びかったため。 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究よりも精神疾患を抱える患者への対応の仕方や処方薬として主要なものを知り、患者に所見を伝える際の注意事項など、実際の臨床場面で役立つ知識を学ぶことが出来たように感じている。 ・薬や病名、どのような症状なのか知っておくことで心理支援がしやすくなったと感じた。 ・精神疾患について深く知ることができました。状態像のみではなく、脳機能や薬理についても触れていたので、非常に学びになっています。 ・薬の作用だけでなく副作用についても学んだので、CIの服薬状況から考えられる臨床像を理解することが出来ました。 ・これまで薬物療法について深く知らなかったが、精神疾患とそれに対する薬物療法のメカニズムから知ること、より理解が深まった。特にどの薬がどういう効果をもたらしているかという点を以前よりもしっかり知識として身に付けることができた。 ・薬が作用するメカニズムや処方の留意点などを学び、処方された薬から患者の症状や状態を推測する力がついた。 3. 全体的に振り返って、授業にお満足できましたか。 ・特に薬の知識や先生自身の所属している病院で主に処方されているものなどを、経験を交えながら説明してくださるので、とても学びになる講義だった。 ・資料もわかりやすく、イメージしやすいと思います。私たちにも意見を聞いてくれるので考えながら授業を受けることが出来ると思います。薬や病名が実際にカンファレンスで出てきたこともあり、とても役に立っています。 ・精神疾患とそれに対する薬物療法のメカニズムや、実際の臨床現場ではどのように心理療法が活かされているのかがとても分かりやすく、よりしっかりと記憶に残ったので良い経験となった。 ・具体的なエピソードも聞くことができ、患者の病状像などイメージしやすかった。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・特になし(複数回答)	医学的な観点から精神疾患において脳と体にどのようなことが起こっているのかについて最新の知見をふまえてわかりやすく説明した。 教科書には描かれていない実臨床場面での話も盛り込み大学院生を退屈させない講義ができた。 最後に実力判定として私が患者役になり模擬診察を行ったがほぼ全員の大学院生が診断から治療法の見立てまで適切に説明することができた。今回の一連の講義がしっかりと定着したと考えられる。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 遠藤 寛子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
健康心理実践特論(心の健康教育に関する理論と実践)	秋期	6	- この授業を履修した理由は何ですか。 - 公認心理師の資格受験を得るため。健康でいられることはとても重要であり、自分にも関わると思うので、履修して視野を広げていきたいから。言葉として意味のわかるものであるとはいえず詳しく知らないものもあり、講義を受けることで知識を深めたいと思ったから。 - 心理師として働くうえで、クライアントを健康にすることが1つの目標になるのだと思います。そのため、健康について知っておくことは重要だと考えたからです。 - 心身の健康に関する心理教育や、理論、方法を学ぶため - 資格取得、卒業単位取得のため(複数回答) - この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 - いじめについての研究をしたいと考えているので、いじめについて扱う授業では特に参考になる部分や今どのように考えられているのかが明確になり、研究にいかせることが多くあると思います。 - 授業内で最新の研究を紹介していただけるので、刺激をいただいています。研究内容に関することも多く、授業を受けることで考えが広がることが多いです。 - 臨床を行うにあたっての言葉の使い方や段階などの意識する点について深く学ぶことが出来ました。セラピストが言葉を使う職業であることを改めて認識したり、ケース資料で【第〇期・・・】と書いてあるのも、セラピーでは段階があることを指していたと理解できました。今後も復習と自己学習を繰り返し、学んだことを生かせるようにしたいです。 - 実際の臨床現場に繋げて、心身の健康に関する理論を学ぶことができた。特に社会的な問題であるいじめ問題についてより視野が広がった感じがした。 - ストレスや怒り、感情についての知識が深まった。 - 研究よりも、実際の臨床場面で役に立つ知識を学べたように感じる。その中で、いじめの問題やストレスについての話を実際の臨床場面ではどうなっているのかという話を交えながら教示してくれたので、理解をしやすかったように感じる。 - 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 - 満足できた(複数回答) - 自分が知っていると思っていたこともそれがなぜそうなのかということまで理解できていなかったこともあるので、そのようなときに研究から言われているという証拠があると納得しやすいと感じました。授業の前後で考える機会があるので自分の今までの考え方や授業を通して学んだ考えを整理できると感じました。 - 院生同士で意見交換しつつ、理論や研究等を学んだうえで、実際にどのように支援をすべきなのか、より深く考えるきっかけにもなり、とても良い経験となった。 - 気持ちが入りやすい授業の始まり方や授業終わりの振り返りなどで、内容を常に自分事として考えながら受講できる授業の流れだった。 - いじめやストレスについて改めて学ぶ機会を得たほか、臨床現場に出た時のCIにたいして無意識的にスティグマを持ってしまう危険性や被害者・加害者の背景要因など、実際に臨床を行う場面で注意しておくべきことをディスカッションや直接の教示で気づかせてくれるので、とても良い学びの機会になったと感じている。 - この授業について、要望があれば記入してください。 - 講義の終わりに感想や学んだことをきいてくれており、そこで自分の考えを整理できると共に、皆の視点からの学びや感想をきくことができるので、あのシステムは継続してもらえると嬉しいなと思います。 - 熱心に向き合ってください、誠にありがとうございました。 - 授業スライドをデータでも欲しいので、teamsにアップしていただきたいです。 - 特になし(複数回答)	本授業では、心身の健康に関する心理学的な支援方法について修得できるよう講義するという内容になっていた。具体的には、ストレスマネジメントに代表される心の健康を維持する心理教育的支援の理論の理解を目指すだけでなく、実践を通して講義するよう心掛けた。感情ならびにパーソナリティについての理解につながるよう、心身の健康に関する心理教育と理論と方法を紹介した。 本授業の目的は、「1.健康心理学に関する理論を説明できる。 2. 心身の健康教育に関する実際の方法を理解できる。」といった2点である。 授業アンケートより、研究と臨床の両側面から役立ったという感想が得られ、授業内容の理論、概念の詳細までを述べている学生が複数いたことから、授業の満足度は高いと判断される。よって、本授業の目標は到達できたと捉えている。 臨床家を目指す学生たちの研究・実践双方の思考が深まるように、健康心理学の理論・歴史を紹介するとともに多様な最新の知見を示したり、時に実践を用いたりするなどして健康行動の心理教育についても触れて多角的な視点で授業を展開したいと考えている。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 遠藤 寛子

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
特別課題研究Ⅱ	通年	2	1. この授業を履修した理由は何ですか。 ・修士論文執筆のため。 ・必修科目であったから 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 ・研究の方法論、論文の読み方、書き方、プレゼンについてなど様々な点においてご指導いただいた。 ・修論に関する知識を教えて頂き大変役に立ちました。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 ・満足できた（複数回答） 4. この授業について、要望があれば記入してください。 ・熱心に向き合ってください、誠にありがとうございました。	授業概要としては、「中間発表に向けて予行演習を行い、効果的な発表スキルの習得を目指して指導する。また、中間発表を振り返り課題と向き合い、さらに研究計画を洗練させる。修士論文の執筆に向けて本実験・調査を実施し、統計的分析を行い、より一層考察を深められるよう指導する。得られた結果を討論し、本研究の意義を再度見直せるよう助言する。」という内容であった。 特に心がけてきたこととしては、学生の興味関心に寄り添い、心理学的なキーワードを示し、議論を重ねながら社会心理学や臨床心理学といった学術的な観点からアドバイスしたことである。 2名ともに毎回課題をこなし、その内容を日本心理学会にて発表した上で、クオリティの高い修士論文を完成させた。修士論文の一部を本学の紀要論文に投稿するなど意欲的に取り組む姿も見られた。
心理実践実習C	通年	6	※アンケート未実施科目の為、到達目標を記載。 ・心理支援を要する者のニーズを把握しアセスメントに基づく心理支援の実践的技能を行うことができる。 ・心理支援を要する者等とコミュニケーションをとり、心理検査や心理面接等を行うことができる。 ・公認心理師が遵守すべき職業倫理、法的義務を理解し実地的な対応を行うことができる。	授業概要は、「本実習では、臨床心理学的援助の実践的技能を習得・向上させることを目的とする。具体的には、学内の実習施設においてスーパーヴァイザーまたは実習担当者等の下、子どもから成人までの心理支援を要する者への心理検査、心理面接等の過程で、心理支援の実践的技能を指導する。また、心理支援を要する者の主訴の背景となる問題点を把握し支援計画を立てる過程で、心理アセスメントへの理解が深まるよう指導する。さらに、スーパーヴィジョンやカンファレンスを通して、公認心理師としての職業倫理および法的義務について理解し、心理的支援者としての技能が向上するよう指導する。」であった。 臨床教員全員がスーパーヴァイザーを担い、面接・検査・レコードの書き方・心理アセスメント等を綿密に指導してきた。カンファレンスでの発表の仕方についても教員が随時確認し、細やかなコメントを示してきた。 今後も公認心理師資格を持つ教員が積極的に関わり、職業倫理、法的義務についても詳細に教授していきたい。

教員の授業報告

心理学研究科
職名 教授
氏名 原 恵子

科目名	開講時期	履修者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載、一部抜粋)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)
産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する 理論と支援の展開)	秋期	6	1. この授業を履修した理由は何ですか。 - 産業についてはまだ知らない部分も多く見えにくい部分があるため、この講義を通して視野を広げていきたいと考えたため。 - 産業分野の心理職の働きについて知りたかったからです。 - キャリア発達や、産業組織など、産業分野における臨床についての知識を深めるため - 資格取得、卒業単位の取得のため（複数回答） 2. この授業を履修して、あなたの研究にどのようなことが役に立ちましたか。 - キャリアというものは働いている人だけにかかわることではなく、生涯において重要であるということを学び、研究ではその部分が役に立つと考えました。 - キャリアの発達の変化に関して、一直線ではなく行き来するということが重要と考えた。転職、役職の変化、退職などといったきっかけにより何度でもアイデンティティの再構成を行っていくのだろうと理解しました。 - 講義やケースの検討などを通して、産業分野について広く知ることができた - 産業分野について表面的な知識しかなかったが、多くの理論を学ぶことを通して、様々な視点から、産業分野における基礎的な支援方法について学ぶことができた。 - 研究や臨床に臨む前段階の知識として、様々なキャリアや個人個人のスキルなどを学ぶことができた。 - 研究よりも、臨床場面で役立つことを学べたような気がします。特に、講義の後半にあるテキストの事例を用いた検討では、実際に自分が産業領域に入った時のケースの捉え方や支援方法を考える機会をいただき、院生同士でディスカッションを行うことによって、自分には無かった視点を取り入れる機会となるなど、様々なことを学ぶことができたと感じています。 3. 全体的に振り返って、授業には満足できましたか。 - 基本的には座学ですが、毎回話し合いの時間があるので自分の意見を整理する場にもなりますし、他の人はこのように考えるのかと毎回気づきがあるのでとても嬉しく思います。また、講義資料もみやすく内容もとても充実していてこの資料を読むだけでもとても勉強になると感じています。検査やケース検討をやってみることもあり、体験することで理解につながっていると思いました。 - ケース検討で、院生同士で意見交換をすることで、より多くの視点を得ることができ、よい体験となった。 - 毎回授業中にワークやケース検討があったので、理論のみの学習よりも実際の現場や自分のスキルと結びつけて考えることができた。 - 産業労働分野の理論だけではなく、事例検討や実際に使われている検査用紙などを見て学ぶことができ、とても有意義な時間だったと感じています。 4. この授業について、要望があれば記入してください。 - 今後もこのような授業スタイルで進めてもらえるととても嬉しく思います。 - 中間レポートの指定分量が多く、他の授業での課題とも重なり少し負担があった。 - 特になし（複数回答）	1. 本授業全体を通したふりかえり 本授業の授業概要は以下の通りであった。授業アンケートの結果からは、授業の意図や内容が概ね正しく伝達できおり、学生の学修行動に効果があったと考えられる。 - 産業心理学とは産業における人間行動を研究し、人と産業との適正な関係性の構築や発展を目指している。人と組織との関係性や組織の中で働くときの人の行動の特長やその背景にある心理状態も扱う。 - 産業社会や社会的自立についての理解を深めた後に、「人的資源管理」「組織行動」「職業生活を通したキャリア発達」「安全衛生：働く人の安全を守り心身の健康をケアする」「消費者行動」をテーマとし、産業・労働分野における理論と支援に関する修得を目指す。 2. 特に心掛けたことや工夫したこと 本授業では、産業・労働分野での心理師(士)としての職責や知識・技能につながる内容を理解・修得させることを特に心掛けていた。そのため、講義に加え、個人検討やグループ討議など学生参画型の演習時間も必ず設けるように実施した。また、現代的・実践的なテーマに関する講義や、産業・労働分野におけるケース検討、産業領域で扱われているアセスメント体験を、授業各回に含めるよう心掛けた。 3. 次回に向けて改善したいこと 実践現場での臨床に役に立つことを狙いとした知識・理論・情報を含めたうえで授業展開していたが、次回も心理師(士)としての力量を高めることを射程におき、授業を担当する。なお、中間レポートの時期や分量などは、他授業や実習との兼ね合いを考慮し、より実態に即したものに改善する。

5 研究発表会及び意見交換会

大学院担当教員相互の研究交流を図るとともに、学生及び教員との意見交換の場を設け、今後の大学院の教育研究活動の活性化に資することを目的として次の研究発表会及び意見交換会を実施している。

5 - 1 研究発表会

日 時：令和6年9月11日(水) 11:00～12:00 (講演 40 分、質疑応答 20 分)

場 所：502 教室

参加者数：23 名(専任教員 12 名、大学院生 11 名)

内 容： 発表者：森 裕幸 心理学研究科 講師

テーマ：「大規模コホート調査に基づく子どものメンタルヘルスに関わる要因の解明」

5 - 2 大学院専任教員と大学院生による意見交換会

日 時：令和6年10月23日(水) 16:00～16:15

場 所：心理学実験実習室

参加者数：25 名(専任教員 13 名、大学院生 12 名)

内 容：

院生からの主な意見

- ・カンファレンスの際に、院生が述べた意見・見立てに対して具体的なフィードバックをいただきたい。
- ・研究を進める中で調査会社を利用したいが、決して安価とはいえない。
- ・実習でのカウンセリングセンター業務をどのように分担すればよいのか分からなくなる。業務を種別ごとに明確にしていきたい。

教員の主な意見

- ・カンファレンスの限られた時間内では、院生全員に向けてのフィードバックは難しい。できるだけ応じられるよう検討していく。
- ・Google フォームを活用する等、できる限りネット調査を利用しない方法を考えてほしい。
- ・実習でのカウンセリングセンター業務内容を精査し、検討していく。

5 - 3 大学院専任教員と客員教員による意見交換会

日 時：令和6年10月23日(水) 16:15～16:30

場 所：心理学実験実習室

参加者数：13 名(専任教員 13 名)

内 容：

主な意見

- ・大学院生からの貴重な意見を踏まえて、研究指導における相互の共通認識を確認した。

<成 果>

課題研究の進捗状況やその適切な指導のあり方、院生が学修しやすい環境の構築、課題の提示についての基本的な考え方の確認等、活発な情報交換がなされ、それぞれの場面での方策について、よりよいあり方を検討することができている。今後も定期的に継続していく予定である。

6 論文審査について

本大学院心理学研究科では、修士論文作成過程において、1年次の秋期に構想発表会、2年次までに2回の中間報告会を実施することとしている。各個別報告の詳細は次の通りである。

令和6年度の報告会及び最終試験は以下の内容にて行った。

6-1 修士論文中間報告会・構想発表会

(1) 第2回修士論文中間報告会(2年次生対象)

日 時：令和6年6月26日(木) 13:30～17:00

場 所：心理学実験実習室

【第2回修士論文中間報告会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時間	発表者	指導教員
13:30～13:35	研究科長挨拶	
13:35～14:05	23MP0001 大田 葉月	遠藤 寛子
14:05～14:35	23MP0002 岸野 尚弥	遠藤 寛子
14:35～15:05	23MP0003 杉本 彰緒	大川 一郎
15:15～15:45	23MP0004 宮坂 奈緒	羽鳥 健司
15:45～16:15	23MP0005 谷地 竜二	藤枝 静暁
16:15～16:45	23MP0006 山田 綾夏	藤枝 静暁
16:45～17:00	講	評

(2) 修士論文構想発表会(1年次生対象)

日 時：令和6年9月25日(水) 13:00～16:30

場 所：心理学実験実習室

【修士論文構想発表会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
13:00～13:05	研究科長挨拶	
13:05～13:35	24MP0001 小出 梨瑳	藤枝 静暁
13:35～14:05	24MP0002 鈴木 陽	大川 一郎
14:05～14:35	24MP0003 田島 大輝	佐々木美恵
14:45～15:15	24MP0004 徳江 珠美	藤枝 静暁
15:15～15:45	24MP0005 長島沙紀香	藤枝 静暁
15:45～16:15	24MP0006 藤山 純典	佐々木美恵
16:15～16:30	講	評

(3) 第1回修士論文中間報告会(1年次生対象)

日 時：令和7年2月26日(水) 13:00～16:30

場 所：心理学実験実習室

【第2回修士論文中間報告会】(1人当りの発表15分・質疑応答15分)

時 間	発表者	指導教員
13:00～13:10	研究科長挨拶	
13:10～13:40	24MP0001 小出 梨瑳	藤枝 静暁
13:40～14:10	24MP0002 鈴木 陽	大川 一郎
14:10～14:40	24MP0003 田島 大輝	佐々木美恵
14:50～15:20	24MP0004 徳江 珠美	藤枝 静暁
15:20～15:50	24MP0005 長島沙紀香	藤枝 静暁
15:50～16:20	24MP0006 藤山 純典	佐々木美恵
16:20～16:30	講	評

6 - 2 学位論文発表会及び最終試験

日 時：令和6年11月27日（水）13：00～16：30

場 所：心理学実験実習室

【学位論文発表会及び最終試験】（口述試験を兼ねる）

時 間	発表者	指導教員	研究テーマ
13：00～13：30	23MP0001 大田 葉月	遠藤 寛子	相談抑制に対する短期的ピア・サポートの効果 ー大学生を対象としてー
13：30～14：00	23MP0002 岸野 尚弥	遠藤 寛子	自己の多面性への動機が与えるアイデンティティへの影響 ーセルフ・コンパッションの可能性に着目してー
14：00～14：30	23MP0003 杉本 彰緒	大川 一郎	セルフ・コンパッションとその関連要因の検討 ーアタッチメント、ウェルビーイングを中心にー
14：30～15：00	23MP0004 宮坂 奈緒	羽鳥 健司	重要な他者への愛着と自己への思いやりが 一人でいられる能力へおよぼす効果
15：00～15：30	23MP0005 谷地 竜二	藤枝 静暁	小・中学校教員の保護者に対する評価懸念が バーンアウト傾向に及ぼす影響
15：30～16：00	23MP0006 山田 綾夏	藤枝 静暁	高学年児童に対する不登校への予防的支援としての ソーシャル・エモーショナル・ラーニングの実施と効果検討
16：00～16：30	審査委員会		

7 おわりに

本年度も無事に10回目の修了生を送り出すことができた。この間の取り組みの成果については、掲載されている学生の授業評価や教員の授業報告にも見る通り、概ね満足の得られる大学院教育が達成できていると評価できる。修了生たちが臨床心理士および公認心理師として現場で活躍し始め、少しずつではあるが、埼玉学園大学のキャンパスに臨床心理学研究と実践の文化が根付きつつあるという感触を得ている。教員自身の研究活動の面でも、特に若手教員を中心に、より活発な研究成果が得られる展開を期待している。

修了生全体の臨床心理士資格取得率は8割以上を超えていること（臨床心理士（合格者27/受験者31）、また公認心理師の合格者も例年輩出している（公認心理師（合格者31/受験者33）ことから、今後も、教員を中心に、今まで以上に積極的に受験準備の支援を行い、在学中から院生が臨床心理士受験および公認心理師受験に向けて必要十分な専門知識と援助スキルを習得できるように指導を徹底していきたい。

埼玉学園大学大学院FD委員会規程

平成22年 5月12日制定

（目的及び設置）

第1条 本大学院に、授業内容及び教育方法を改善し、その質的充実を図るとともに、教員の教育力の向上に資すること（Faculty Development。以下「FD」という。）を目的とし、FD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任 務）

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項について組織的な推進を図ることを任務とする。

- (1) FD活動の企画立案に関すること
- (2) FD活動に関する情報収集及び提供に関すること
- (3) FD活動についての評価及び報告書の作成に関すること
- (4) 学長の諮問した事項に関すること
- (5) その他大学院のFDの推進に関すること

（組 織）

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 研究科長
- (2) 専攻主任
- (3) 専任教員のうち、研究科委員会より選出された教員 若干名

（任 期）

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、委員長は研究科委員会の議を経て、学長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

（会 議）

第6条 会議は、過半数の委員の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第7条 委員会は、必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

（事 務）

第8条 委員会の事務は、事務局教務課において処理する。

附 則

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この規程施行後、最初に就任する委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成23年3月31日までとする。

令和〇年〇月〇日

大学院心理学研究科
授業担当教員 各位

大学院心理学研究科
FD委員長 大川 一郎

学生向け授業に関するアンケート実施のお願い

埼玉学園大学大学院経営学研究科の授業につきましては、日頃より格別のご指導、ご配慮を賜り、厚く御礼申し上げます。

令和〇年度〇期の授業アンケートを下記のとおり実施することとなりました。

つきましては、アンケート実施の趣旨をご理解いただき、実施していただきたく、ここにお願ひ申し上げます。

ご負担をおかけいたしますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

記

1. 実施期間 令和〇年〇月〇日（月）～ 〇月〇日（金）
2. 対象授業 講義科目、研究指導科目
3. 実施方法
 - ・アンケートの実施科目は、履修者が2名以上の講義科目及び研究指導科目を対象とする。
 - ・担当教員は授業開始後に10～20分回答の時間を設ける。
 - ・履修者はあらかじめ教務課より送られている専用URLにて回答を送信する。
4. 授業アンケート結果の活用
授業アンケートは集計し、FD活動報告書に掲載する。

以上

教員の授業報告

心 理 学 研 究 科
職 名
氏 名

科目名	開講 時期	履修 者数	学生の授業アンケート内容 (実施科目のみ記載)	教員の自己評価 (当該授業に関し、特に心掛けてきたこと、改善・工夫したこと及び特筆すべき事項)

参考資料 4

中間報告会の振り返り

埼玉学園大学大学院 心理学研究科

※書ききれない場合は、行数を増やしていただいて構いません。

学生番号	氏名	指導教員名
中間報告会までの準備を振り返ってどのような点が反省点としてあげられますか		
論文指導についての意見は何かありますか		
中間報告会での各教員からのアドバイスは、今後の論文作成において、どのように参考になりましたか。		